

京都工芸繊維大学同窓会  
(KIT同窓会)

# 会誌

No.4 平成22年



# 会 告

平成 22 年度の総会を、下記のとおり開催します。会員諸兄姉の多数のご参集をお願いします。  
懇親会は、KIT 同窓会・衣笠同窓会と合同で開催します。

同窓生はじめ、クラブ・同好会など関係者お誘い合せのうえ、多数のご参加をお待ちしています。

## 記

### ○ 京都工芸繊維大学同窓会 平成 22 年度定期総会

日 時 平成 22 年 7 月 3 日(土) 午後 4 時から

場 所 ウェスティン都ホテル京都 西館 2 階 「比叡の間」

議 案 1. 会則の改正 2. 人事  
3. 平成 21 年度事業報告 4. 平成 21 年度決算報告  
5. 平成 21 年度会計監査報告 6. 平成 22 年度事業計画案  
7. 平成 22 年度予算案 8. その他

報告事項 理事会報告

### ○ 京都工芸繊維大学同窓会・衣笠同窓会合同懇親会恒例の懇親会を 下記により開催します。

## 記

日 時 平成 22 年 7 月 3 日(土) 午後 6 時から

場 所 ウェスティン都ホテル京都 西館 2 階 「愛宕の間」

京都市東山区三条けあげ 〒605-0052 電話 075-771-7111

会 費 10,000 円(ただし、学生会員は 3,000 円当日受付にてお支払いください。)

### 〈参加申込みについて〉

総会、懇親会への多数の参加をお待ちしております。出欠の御返事は、会員原簿下部記載の出欠文字の何れかに○印をお付けの上、別添返信用封筒に封入の上、6 月 15(火)までに必着するようにお願いします。

## 新生京都工芸繊維大学同窓会の発足に当たって



京都工芸繊維大学同窓会会長代行

松原 藤好

(養蚕科 昭和31年卒)

京都工芸繊維大学(KIT)同窓会会員の皆様には、益々ご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。日頃より同窓会の改革、活性化および発展のために、ご尽力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

ご存知のように、平成18年1学部の単科大学に改革、改組され、それに伴いKIT同窓会が設立されました。その第1期卒業生が愈々平成22年3月に卒業することになります。この間、紆余曲折はありましたが、京都工大会、衣笠同窓会、大学各位のご努力によりKIT同窓会、京都工大会、衣笠同窓会の3者が統合を果たしました。

新生KIT同窓会のスタート直前に当たるここ2年の同窓会の動きについてご報告申し上げます。統合同窓会の暫定会則の見直し、財務設計、意思決定機関の明確化に重点をおいた組織見直し、組織の活性化の仕組、整備等々に関し、大きな方向付けはできたと思います。

京都工大会、衣笠同窓会は、それぞれに長い歴史と伝統を持ち、それぞれに慣れ親しんだシステムがあります。旧両同窓会で最も差異があって重要な同窓会費の一元化の課題は、両システムを共存させることで目途を得ました。新規に導入される終身会費制によりある程度の基金ができることを期待しています。会誌発行事業に関しましては、同窓社会人の活動状況や特定テーマの特集を組むなど、内容の充実に努めてまいります。組織に就きましては、新卒業生の年度毎員数の計画的な理事職への参入の方向を決め、若手理事の意見、価値観の導入を図ってまいります。KIT同窓会の根幹をなす同窓会会則の見直しは、最終的には新卒業生理事の参画を得て決定しますが、初期の変動を考え、暫くは細則で補完するのがよいと思っています。

本会の目的は会員相互の交流、親睦と大学への寄与を図ることがベースとなりますが、先ず旧両同窓会の交流をさらに活性化することが必要です。本会誌に交流の一部の状況を掲載致しましたのでご覧下さい。交流活動の支援金の予算化も進めたいと思っています。日本経済が縮小する中、同窓社会人の職の不安定が気になる処です。同窓会の活動として転職、再就職援助ができる方途はないものか調査中です。

今年は大学創立60周年事業の挙行に当たり、皆様方より多額の寄付金を賜りましたことを厚く御礼もうしあげます。事業テーマの一つにありました大学構内での同窓会館の建設も予定どおり施行され、同窓生のデザインによる立派な会館が竣工しました。学長先生をはじめ大学各位のご配慮に対し深く御礼申し上げます。皆様の活発な活用を願うものです。

さて、私は本年開催予定の本誌ご案内の定期総会をもちまして、会長代行を任期満了により退任致します。無事任を終えることができましたのは、江島学長先生、古川顧問をはじめ本学の先生、同窓会各位のご指導ご協力の賜物であります。改めまして深く感謝申し上げます。終わりに当たり、母校と同窓会の益々の発展を祈念致し退任の挨拶といたします。ありがとうございました。

## 「同窓会パビリオン」が完成しました

学長 江島 義道



同窓会会員の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のことと、心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年は、ご承知のように創立60周年(開学110周年)を記念し、大学の新たな歩みをより確かなもの力強いものとするために、募金活動をはじめとして様々な記念事業を行なわせていただきました。お蔭様で、平成21年度内にすべての記念事業を滞りなく成功裡に実施することができました。これは、ひとえに、同窓会をはじめ本学関係者のご協力とご支援のお陰です。募金活動では、同窓会の皆様から多額のご寄付をいただくことができました。同窓会の皆様には、改めて心から感謝申し上げます。

創立60周年記念事業として実施した主な事業は以下の通りです。

- (1) 創立60周年記念式典・記念講演会・記念協賛事業(平成21年5月31日)
- (2) 創立60周年記念誌の刊行等
- (3) 本学の歴史的資料展示室の整備
- (4) 創立60周年記念講演会等  
創造連携センター設立記念講演会(平成21年6月19日)  
ネオファイバーテクノロジーシンポジウム(平成21年9月11~12日)
- (5) 大学サイエンスフェスタ in Tokyo(平成21年11月20日から29日)
  - 「エコの未来をデザインが拓く」の展示  
国立科学博物館
  - Home Coming Day(平成21年11月21日)
  - 特別講演会1(平成21年11月21日)  
次代へのデザインインスペクション  
-サステイナブルスタイル価値創造にむけて-
  - 特別講演会2(平成21年11月26日)

ナノテクノロジーに基づく新しい繊維プロセス技術

(繊維科学センター 第3回講演会)

- (6) 教育研究環境の整備等  
同窓会パビリオン(仮称)新営  
創立60周年記念館新営  
学生食堂の新営

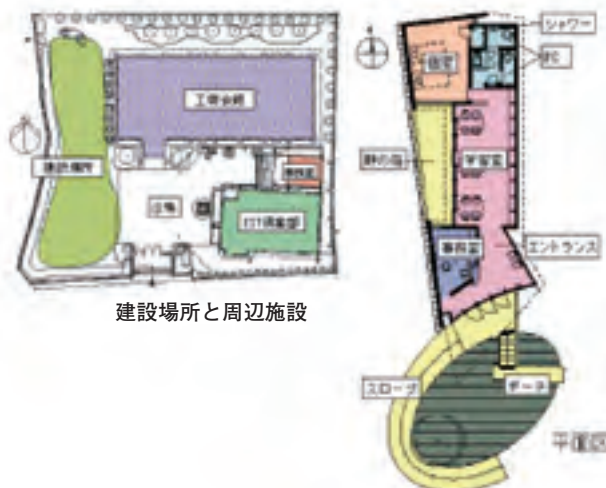
今回の記念事業で特に同窓会の皆様に喜んでいただけることは、同窓会活動の拠点となる施設が松ヶ崎キャンパス北部の敷地に整備できたことです。

設計は、本学の角田准教授によるものです。図に示しましたように、シャープな幾何学的性があり、立ち姿も屋根と壁が連続性を有し、見る角度によって多彩な表情を見せるユニークな建物です。設計者によると、「過去から未来へと積み重ねられる本学の歴史や理念を見据えて、現代における存在感を結晶した形をイメージ」したものだそうです。

同じ敷地内には、宿泊施設(工織会館)、懇談室(KIT 倶楽部)等の施設もありますので、同窓会の皆様には、多様な交流、親睦、活動の場として、ご活用いただけるものと思っております。ご利用をお待ちしています。

最後に、私こと、この度、平成21年11月の京都工芸繊維大学法人学長選考会議において、学長のご指名(再任、任期2年)を受け、平成22年4月1日をもって本学学長にあらためて着任いたしましたことをご報告申し上げます。本学の発展と飛躍のために全力を挙げると決意しています。同窓会会員の皆様には、今後ともより一層のご指導、ご鞭撻、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 「同窓会パビリオン」が完成しました



同窓会パビリオン(仮称)  
黒いものが建物の概観

## KIT 同窓会定期総会ならびに懇親会報告

KIT 同窓会総務委員長 森 肇  
(養蚕 昭和 57 年卒)

京都工芸繊維大学 1 号館 3 階の大学院会議室において、平成 21 年 5 月 30 日(土)16 時から約 1 時間、KIT 同窓会総会を開催しました。出席者は約 85 名でした。

議事に先立ち総務委員長から総会開会宣言を行い、配布資料の確認が行われた後、議事進行についての協力をお願いしました。次いで、松原会長代行から、開会の挨拶の中で、多忙の中、総会出席に対する謝意が表せられました。

総務委員長から議長選出については、松原会長代行にお願いする旨を出席者にお諮りし、全会一致で、松原会長代行を議長に選出することのご承認を頂きました。

議事に先立ち、総務委員長から、平成 21 年 5 月 16 日開催の理事会において、7 件(会長代行・副会長・顧問についての人事、平成 20 年度事業報告、平成 20 年度会計報告、平成 20 年度会計監査報告、平成 21 年度事業計画(案)、平成 21 年度予算(案)、その他(衣笠同窓会からの提案)の協議事項について審議され、了承された旨の報告がありました。

以上の報告の後、以下の議題について審議を行いました。

### 1. 平成 20 年度事業報告

松原会長代行から、平成 20 年度事業報告を、総務委員長から報告願いたい旨の発言に続き、総務委員長から、配付資料(パンフレット)に基づき報告があった後、審議の結果、承認されました。



### 2. 平成 20 年度決算報告

松原会長代行から、平成 20 年度決算報告を、中森理事(会計担当)から説明願いたい旨の発言に続き、中森理事から、配付資料(パンフレット)に基づき報告があった後、審議の結果、承認されました。

### 3. 平成 20 年度会計監査報告

松原会長代行から、福西監事より、会計監査報告を願いたい旨の発言に続き、福西監事から、平成 20 年度の収支決算書、一般会計貸借対照表の 2 点について、平成 21 年 4 月 21 日(火)に母校の京都工芸繊維大学同窓会事務局において、福西監事・西村監事と共に領収書、帳簿及び通銀行帳・現金等逐一照合し、配付資料に記載してあるものと全く違いがないことを確かめ、監査の結果、異常は認められなかった旨、監査報告があった後、審議の結果、承認されました。

次いで、中森理事から、監事からの意見として、平成 21 年度以降分の前納会費は執行出来ないの、預貯金・前納会費預かり金というものを、収支決算書に掲載するのは、逆に混乱す



る原因にならないかと、これは執行出来ないの  
で特別会計扱いとした方が適当ではないかとの  
意見がありました。ついては、現在検討してい  
るので、検討結果が分かりやすいようであれば、  
平成 22 年度以降検討結果の収支決算書に変更  
してよいか諮られ、拍手全会一致で承認されま  
した。

#### 4. 平成 21 年度事業計画(案)

松原会長代行から、平成 21 年度事業計画を、  
総務委員長から説明願いたい旨の発言に続き、  
総務委員長から、配付資料(パンフレット)に基  
づき説明があった後、支部活動に関する事を事  
業計画に盛り込んで貰えないかとの提案意見発  
言がありました。続いて、総務委員長から、5  
月 16 日開催の理事会において同様の意見が出  
されました。ついては、①現在の会則は支部に  
関する定義がなされていない。②今年度中に支  
部のあり方あるいは定義というものを、会則に  
正式に定義した形にして、支部というものが動  
けるように整備して行きたい旨、発言がありま  
した。

次いで、平成 21 年度事業計画(案)について  
諮られ、審議の結果、拍手全会一致で原案が承  
認されました。

#### 5. 平成 21 年度予算(案)

松原会長代行から、平成 21 年度事業計画を、  
中森理事から説明願いたい旨の発言に続き、中  
森理事から、配付資料(パンフレット)に基づき  
説明があった後、審議の結果、拍手全会一致で、  
原案が承認されました。



#### 6. その他

##### (1) 衣笠同窓会からの提案

松原会長代行から、①衣笠同窓会からの提案、  
②会則、会費納入制度を検討する委員会の設立  
について、総務委員長から説明願いたい旨の発  
言に続き、総務委員長から、衣笠同窓会におい  
て、配付資料(パンフレット)記載の事項につい  
て、KIT 同窓会に依頼することが決定した旨  
の発言に続き、配付資料(パンフレット)に基  
づき説明がありました。

##### (補足説明)

- ・会費納付者の現状を分析すると、どうしても  
年会費の納入実績が上がらず、現在 KIT 同  
窓会の運営・運用は、実際、新入生からの学  
生会費及び父兄からの賛助金で運営している。
- ・大学創立 60 周年記念事業のような、大学で  
の大きなイベントが実施されるようなことが  
あれば、同窓会として出来るだけ多くの支援  
行いたいという立場になろうかと思われる。  
そのためには、KIT 同窓会そのものがきち  
んと対応出来るように、基金を持っておく必  
要があることを提案したい。
- ・KIT 同窓会年会費・前納会費・終身会費と  
いう 3 本柱で実施すれば、よいのではないか  
とっている。KIT 同窓会と衣笠同窓会と  
のシステムが違うので、直ぐにといことは、  
なかなか難しいと思うが、本総会に提案した  
い。

次いで、森総務委員長から、

- ##### (2) 会則、会費納入制度を検討する委員会の設 立について、平成 22 年 3 月に工芸科学部の 学生が卒業して、正式に KIT 同窓会中森理 事(会計担当)から説明願いたい旨の発言に続

き、中森理事から、配付資料(パンフレット)に基づき報告があった後、審議の結果、承認されました。

総会の途中で、公務のため遅れて出席された江島学長から、本日多忙の中、又土曜日という日に母校創立記念事業式典に多数の参加に対し、感謝申し上げたい旨の謝意が表せられました。

## 平成21年度「京都工芸繊維大学同窓会」・「京都工大会」・「衣笠同窓会」合同懇親会

グランドプリンスホテル京都地下2階のゴールドルームにおいて、平成21年5月30日(土)18時から約2時間、KIT同窓会合同懇親会を開催しました。出席者は約75名でした。

KIT同窓会副会長・京都工大会理事長代行本城博一氏の開会宣言の後、KIT同窓会会長代行・衣笠同窓会会長松原藤好氏とKIT同窓会顧問・京都工大会理事長・京都商工会議所特別顧問古川敏一氏から開会の挨拶がありました。続いて、ご来賓の方々の紹介(京都工芸繊維大学長江島義道先生、京都工芸繊維大学元学長巽



友正先生、京都工芸繊維大学理事・副学長功刀滋先生、京都工芸繊維大学理事・副学長竹永睦生先生、京都工芸繊維大学理事・事務局長林一義様、財務課調達検収室長小牧靖昌様)がありました。

京都工芸繊維大学長江島義道先生から来賓代表の祝辞があり、京都工芸繊維大学元学長巽友正先生に乾杯のご発声を頂き、いよいよ懇親会が始まりました。

三好明様より中締めのご挨拶を頂き、大変盛大な中での懇親会もお開きとなりました。

### 退官挨拶

山岡 亮平  
(応用生物学部門)



“百聞は一見に如かず、されど百見も一験に如かず。”

“一験”などと言う言葉は辞書には載っていない。私が勝手に作った言葉で、実際に自分自身で一度体験してみることを意味しているつもりだ。

5年前から日本理科教育振興協会よりの委嘱(文部科学省からの依託)をうけ、“その道の達人派遣事業”の講師の1人として、児童生徒の学習意欲の向上を図るために全国の小中高校を回っている。名付けて“アリの達人”。これが私の芸名らしい。科学立国を目指しているはずの日本であるが、“理科離れ”が叫ばれてから久しく、いくつかの手は打たれているはずだが、一向にその傾向が改まる気配は無い。

2003年度のノーベル化学賞受賞者である田中耕一氏とは共通の質量分析学会に所属している。彼がノーベル賞の対象となった研究を1987年の学会で始めて発表した京都大会の私が会場責任者でもあったこともあり、年齢は彼の方が一回り下ではあるが20年以上のつき合いがある。彼の話聞いてみると、理科に興味を持つようになったのが小学生の時で、たまたま物理専攻の新米先生が赴任してきて面白い物理の実験を次々工夫し実際に体験させながらやらせてくれたからだそうである。これこそまさに理科教育の原点であろう。

教育大学出身でなければほとんど小学校の先生にはなれず、申し訳ないが理科、実験が不得手な女性の先生方がかなりの人数を占めている現状を打破するにはサイエンスの実験の専門家を小学校に入れ、“サイエンス”として独立授業を持って貰うことこそ最も必要であろう。それも先生自身がやってみせるのではだめで、実際に生徒一人一人やってもらうことこそ重要であろう。

聞く、見る、触る、嗅ぐ、味わう、この五つが同時にそろって始めて五感を刺激し記憶として印象深く脳内に残り、折々に感性を揺り動かすことになる。

本学の先生方にも率先して小中高への出前実験をぜひやっていただきたい。

### 停年退職に当って

石原 孝  
(物質工学部門)



この度、本学を停年退職することになりました。1975年に京都大学工学部の助手として採用されて15年、1990年に本学工芸学部へ赴任して20年という歳月が光陰矢のごとくに過ぎ去りました。この間、多くの先輩・後輩に恵まれ、そして多くの教職員・学生の方々に出会い、沢山のことを体験し教えていただきました。ここに停年退職の今日を無事迎えることができましたのも、ひとえに皆様のお陰と心から感謝しております。

1995年から7年間、日本化学会化学への招待委員会の長として小・中・高校生を対象にした化学啓発事業に携わってきましたが、いつも参加者の輝いた眼差の中に化学への夢を垣間見ることができました。この貴重な経験によって、教育・研究においても斯ある夢を抱かせることが最も重要であるとの思いが確信となり、本学赴任以来、この信念の基に有機化学関連の実験・講義・研究等に工夫を凝らしながら取り組んできました。しかし、この後に及んでも、特に講義の前において畏怖とも取れるちょっとした緊張感を覚えることがあり、20数年前に停年退官を間近に迎えられた恩師の故安藤貞一先生(京大名誉教授)が言われた「今になっても真の教え方が分からない」という印象的な言葉をしみじみと実感しています。

研究においては、1979年に米国アイオワ大学化学科に博士研究員として留学する機会を得、D. J. Burton 指導教授のお陰でフッ素化学の先端的な研究に従事することができました。翌年に自らの研究への夢を携えて帰国し、それ以来、含フッ素カルボニル化合物を基軸とする合成研究を精力的に展開してきました。まだまだ未解決の課題が多く残されていますが、有機化学分野における“含フッ素カルボニル化合物の化学”を深化させ、看板領域として築くことができたと自負しております。因みに、政治家に必要なものは地盤・看板・鞆の3ばんと言われますが、現在の研究者にもこれらが重要視されるようになってきたことは日本の将来に一抹の不安を感じさせます。

サムエル・ウルマン曰く、「夢を失った時に初めて老いが来る」と。今後はこの言葉を胸に秘めて、いつまでも夢追いの老輩たらんことを願いながら、充実感ある道程をじっくりと歩んでいきたいと思っています。最後に、京都という良き環境と良き地の利を活かして、本学が益々発展されることを祈念して、停年退職の挨拶といたします。



## 京都工芸繊維大学を去るにあたって

秋山正博

(電子システム工学部門)



2001年の4月から京都工芸繊維大学でお世話になり、30年ぶりに京都での生活を始めた。京都の景観も徐々に変化しているが、他の都市と比べるとその変化はゆっくりしている。学生の時に下宿していた南禅寺の周りなどは殆ど当時のままである。企業から大学という別の世界に移ってきたこともあって、学生時代には気づかなかった京都の新しい発見を楽しみながら、この9年間を自分の子供たちと同じような年齢の学生諸君と新鮮な気持ちで過ごすことができた。企業では基本的にそれまでの社員に新人が加わってくるために年々年をとることを実感するわけであるが、大学では常に同じ年代の学生が相手となるために自分が年をとっていることを忘れ、若いままのような錯覚を覚えることも楽しいことであった。

私は企業に在籍していた時から通信技術にかかわるデバイス、回路等のハード技術の研究開発に携わってきたが、この分野も御多分に洩れず技術の変化の速度が速く、今日の新技術は明日には古い技術となっていく。その速度はますます速くなっているようであり、その変化を追いかけていると目が回りそうである。これからこの世界に入っていく学生諸君も大変なことと思うが、これらのめまぐるしい変化も一皮剥けばその動作原理がそれほど変っているわけではなく、表層部分のみが変化しているものが殆どである。この一皮剥いた部分を教えるのが大学の役割と考えて学生に接してきたつもりであるが、その効果のほどは定かではない。私の力及ばず無駄な時間を過ごさせたことになっていないことを祈るばかりである。いずれにせよ、本学で同じ時間を共有した学生諸君が将来の日本の技術レベルを大いに高めてくれることを期待している。

## 虚の世界に住して

米谷文男

(基盤科学部門)



松ヶ崎は深い雪に覆われていた。後輩の受験に付き添って初めてここを訪れた時の事である。次に 세미나で訪れた齋之内先生の室は木造であった。そこは現在のセンターホールあたりであろうか。その後、工業短期大学部に席を置く事となった。日本のアカデミアであった比叡を空に仰ぎ、絶えることない高野川のせせらぎを耳にし、妙法を脇に蔵するこの地は学問するに真にふさわしい。夜学ぶ学生は人懐っこく暖かかった。年配の勤労者は集って遅くまで勉強していたが、頭に入れた事がすぐ消えるんですとぼしていた。昼学ぶ学生も真面目できちんと解いた演習ノートを持っていた。最近、試験の過去問は取り揃えられているのに、解かれた形跡が見られなくなったように感じるのはいまいか。汗とチョークにまみれて口角泡を飛ばしてきたが、馬の耳に念仏を馬耳東風と聞き流す。分り易くとこのうめきを無視してきた私が馬であったかもしれない。質を落とすことなく努めてきたと言い訳しつつお許し願いたい。母から口を酸っぱくする程「風の悪いことはするな」としつけられてきたが、だらしのない装い・大声・無作法なふるまいに眉を擡めておられた方も多いものと思う。月足らずの3月生まれで体の小さかった私は目前のことに全力を尽くしてやっと人並みのことができた。他事を考えるゆとりがないのである。飲食にも全力を尽くした。それで手を焼かせたことを含めてお許し願う次第である。心の風は良く保ったつもりである。私は複素解析学を専攻し、虚の世界を歩いて来た。数学教室の雰囲気を感じておこう。赴任当時学長であった吉田先生は私の分野の大先達である。昼休みに数学教室にこられ本学のあれこれを茶飲み話に伺った。反骨心を含み凛とした高潔な精神を見る思いがした。齋之内先生は誠に穏やか、河田先生はおおらかで風呂敷包みの弁当を開けておられた。靴音の響きはコートを着たフランス仕込みの端正な濱田先生である。このように、自由に伸びやかな雰囲気の下、中岡先生、大倉先生、矢ヶ崎先生とは激論しつつ和やかに教育研究に携わってきた。基盤科学部門となって、岩塚先生、朝田先生、塚本先生、峯先生、奥山先生等多彩な俊秀で数学教室を構成し、数学の教育研究は心強い限りである。生来の人見知りする性格から数学関係以外の人とはあまり話をする機会をもたなかったことが残念である。しかし、皆様から脚下に注がれる暖かい目の御陰で大きく躓くこともなく過ごせた。遅れたり間違えたり多くドジってきたことを謝しつつ、すべての方々にお礼申し上げる。ここに、知と美と技が渾然一体となった林・森が形成され、獣が吠え鳥がさえずるように談笑の絶えない松ヶ崎を想像しつつ筆を置こう。

## 定年退職挨拶

藤井善通

(先端ファイブ科学部門)



定年退職を迎え、同窓会の皆様に感想を述べさせていただきます。私は4年間京都工芸繊維大学に在職して定年に達しました。実はようやく大学生活に慣れたところでした。それまでは35年間企業で研究開発の仕事をして来ましたので、企業人の匂いが染み付いています。ここでは企業と大学との違い(カルチャーショック)について述べることで挨拶とさせていただきます。企業は設けること(金)を表面の目的としてそのドライビングフォースを元にエネルギーを生み出していると言えるかと考えます。大学の目的はもとより研究と教育と言うことになりませんが、そのドライビングフォースは金ではなく名誉と言うことになるのでしょうか。大学に来て一番違いを感じたのは、企業は団体(組織)としての行動ですが、大学は個人プレーです。確かにオリンピックでは個人または団体にメダルが授与されるのであって国ではありません。研究室は個人経営の小さな企業であることを改めて認識しました。大学の研究の運営がもし組織的な運営で行われれば、より効率の高い研究が期待できるのではと考えています。しかし、企業的な運営が強くなると儲かる研究に偏り、企業では取り組めない基礎的研究をどこがだれがやるかと言う疑問にも突き当たります。大学では企業が取り組めない挑戦的、あるいは長期間掛かる研究に取り組むべきと考えます。卒業生の大半が企業社会にでて、活躍されていることと思いますが、企業と大学とが共同あるいは分担して研究する機会をたくさん得ることが日本の発展に寄与できるのではないかと考えるこのごろです。その意味でますます、産学連携の実を上げる取り組みに卒業生の方々のお力添えを期待したいと考え、大学に頻繁に顔を見せていただきたいと考えます。

## ケミストリーと取り組んで30有余年

物質工学部門准教授

飯塚泰雄

(物質工学部門)



昭和50年7月16日に本学に赴任してから34年間で「あっ」という間に過ぎ、早、この3月末日で退職となります。その間、居室は今の3号館311号室を一度も移ることがありませんでしたが、組織上の所属の名称は、工学部共通講座化学教室、同物質工学科、大学院工学科学研究科物質工学部門と時代とともに変化し、平成9年からは表面化学反応学という研究分野を立ち上げました。

最初の共通講座化学での13年間は「分析化学実験」と「分析化学」の講義に携わる一方で、 $\text{MoO}_3$ 上のCO酸化反応機構につき自らの手で実験し、研究する日々を過ごしました。この間、先輩の諸先生方からの多くの教えを受け、私自身の中で醸成され、研究に対する基本姿勢〔一つの触媒反応について異なる手法を用いてアプローチすることにより、より掘り下げ、より深く理解する〕が培われたと思っています。

1988年の物質工学科発足とともに卒研究生の受け入れ、即ち、人を育てるということが私の任務の中に本格的に加わり、以来研究とそれを通じた人材育成が生活の二本立てとなりました。学生指導の方針は常に、会社時代も通じ、それまでに培った最高の実験技術と研究最前線を伝え、学生と共に最先端の研究を進めることを通じて、社会のどこに行っても通用する人材を育成することにありました。

この30有余年私が取り組んで参りましたことは、サイエンス、テクノロジー、ケミストリー等と種々の表現が出来ますが、私にはケミストリーが一番しっくりときます。民間会社で携わったリン酸製造、共通講座での $\text{MoO}_3$ 上でのCO酸化、表面化学反応学での金触媒による低温CO酸化や最近のベンゼン水素化、いずれも各々のケミストリーであり、ケミストリーは学べば学ぶほどその世界は深まり、魅力を増し、それは学生にも自ずと伝わり、今日まで約50人の熱心な学生とともに、ケミストリーを研鑽できました工織大のこの場に深く感謝いたします。

## 退職の感想

井上 康博

(機械システム工学部門)



本年、諸先輩方や教職員の皆様方のご指導、ご鞭撻により無事定年を迎えられ大変嬉しく思っております。昭和47年7月、工芸学部生産機械工学科に配属され、以来材料強度関連の研究室でお世話になり、機械工学実験の応力・ひずみ測定に関するテーマを担当しました。1人で担当した時期が長かったので、多くの方と接する機会がありましたが、スタッフの関係で2人担当の時期もあり、全員を対象にすることができなかったことが心残りです。浅学の為、当時説明不足や間違いを教えていたのではないかと冷や汗が出ることもありました。

本学に赴任した時、まだ住居が決まっていなくて、糺の森辺りに宿泊していました。祇園祭が近く華やいだ雰囲気でした。市電で通勤しましたが、本学の近くはまだ田んぼが多くあり、用水路には小魚やザリガニなどが見られました。学内は徐々に整備され、昨今では10号館の耐震改修工事や生協食堂の建替え等、身近でも大きく変化していますが、学科内(現在は部門制になっています)も私が赴任して以来3世代の交代がありました。物づくりも近年では単に作るのではなく、どう壊すか・どう解体し再利用するか等、総合した環境対応型技術が要求され、旧来の分野には馴染まない領域さえ取扱わねばならない時代となっています。顕学に“今が大切”という言葉があります。その今に本学の理念である“人間と自然の調和”を透して、これら急激に変化した事柄に少しでも貢献できたか疑問で、悔いの残るところです。

最後になりましたが、気ままに好き勝手な時を過ごさせて頂きました皆様に感謝いたしますとともに本学の一層の発展を祈念いたします。

## 寄稿

### 次はロンドンオリンピックの年

☆☆☆短大写真工学科同窓会☆☆☆

小櫻 武彦

(工業短期大学部写真工学科 昭和58年卒)

4年毎に開かれる短大写真工学科の同窓会、今回は北京オリンピックの開かれた2008(平成20)年7月13日京都の新都ホテルで開催された。

当学科は1969(昭和44)年短大に新設され1988(昭和63)年各学部の改組により翌年の新入生の停止、1992(平成4)年に最後の卒業生を送り出して閉学となった。その間短大写真工学科は男子520名 女子53名の計573名の卒業生が送り出された。

他の学科より総数は少ない同窓会であるが定期的に開催される数少ない学科同窓会である。今回は田中俊夫先生、久保田敏弘先生始め先生方卒業生合わせて37名の出席で旧交を温めるもの、初めて顔を合わすもの等和やかに開かれた。出席者全員から近況報告や心境報告があり最近の母校の報告もあった。次はロンドンオリンピックの開催される2012(平成24)年に開かれる。今回参加出来なかった短大写真の卒業生の皆さん次の2012年には是非出席して下さい。



第11回京都工芸繊維大学工業短期大学部 写真工学科同窓会  
平成20年7月13日(於：新・都ホテル)

## 「京都工芸繊維大学創立60周年記念事業」記念式典等を実施しました

### 京都工芸繊維大学広報センター

本学では、去る5月30日に、本年5月31日の大学創立60周年を記念した記念式典等を挙行了しました。

当日は、宮内庁正倉院事務所保存課調査室長の尾形充彦氏(S52年繊維学部卒)による『正倉院裂の世界』、元村田製作所取締役生産技術統括部長の福井則夫氏(S38年工芸学部卒)による『ものづくりの考え方と今後の展望(村田製作所を例として)』をテーマとした記念講演が行われた後、江島学長の挨拶や記念事業により建築を計画している「同窓会パビリオン(仮称)」設計競技の入賞者表彰等、60年の節目を記念した式典が行われました。

そのほか、美術工芸資料館の収蔵名品展、附属図書館の貴重資料展、新同窓会パビリオン設計競技応募作品展、大学の研究シーズを紹介する科学技術展、特色ある授業の成果発表会、学生によるロボット展や学生フォーミュラ展など

各種の催しが行われ、卒業生や教職員OB、在学生の保護者等が多数訪れました。

また、記念事業のひとつとして刊行された記念誌「京都工芸繊維大学『60年の歩み』」が、お祝いの紅白饅頭とともに来場者全員に配布されました。

今後の記念事業としては、国際学術研究集会や大学サイエンスフェスタ(東京・国立科学博物館)等を順次開催する予定としています。

### 大学創立60周年記念事業概要

◎平成21年5月30日(土) ※終了しました  
記念式典・記念講演会 他

(京都工芸繊維大学)

◎平成21年6月19日(金) ※終了しました  
創造連携センター設立記念講演会

(京都府立文化芸術会館)



記念式典



江島学長の挨拶



記念講演会



新同窓会パビリオン設計競技応募作品展

◎平成 21 年 9 月 11 日(金)～9 月 12 日(土)

※終了しました

国際学術研究集会(京都工芸繊維大学)

◎平成 21 年 11 月 20 日(金)～11 月 29 日(日)

※終了しました

大学サイエンスフェスタ in Tokyo

(国立科学博物館 [東京・上野公園])

●記念式典、記念講演会、大学サイエンスフェスタ、Home Coming Day などの開催

京都工芸繊維大学が歩んできた 60 周年(開学 110 周年)を記念し、誇りある回想と未来への飛躍を祈念して、記念式典、一般公開の記念講演会等や卒業生への Home Coming Day(東京地区同窓生懇親会)を開催します。

(記念式典・記念講演会)※終了しました

開催日	平成 21 年 5 月 30 日(土) 13:00～16:00
会場	京都工芸繊維大学センターホール (京都市左京区松ヶ崎橋上町 1 番地)
プログラム	○同窓会会員による記念講演会 13:00～15:00 ・「正倉院裂の世界」 講師：尾形 充彦氏 (S52 年繊維学部繊維工学科卒業) ・「ものづくりの考え方と今後の展望 (村田製作所を例として)」 講師：福井 則夫氏 (S38 年工芸学部機械工芸学科卒業) ○記念式典(祝賀会) 15:00～16:00

(創造連携センター設立記念講演会)

※終了しました

開催日	平成 21 年 6 月 19 日(金) 14:20～16:20
会場	京都府立文化芸術会館 ホール (京都市上京区河原町通広小路下ル)
プログラム	「感性の京都 - 祇園おもてなし文化のなぞと 脳科学による読み解き-」 ○基調講演 江島義道(京都工芸繊維大学長) ○特別講演 桐木千寿(華道家・祇園花彩オーナー)

(国際学術研究集会)※終了しました

開催日	平成 21 年 9 月 11 日(金) 10:00～17:30 12 日(土) 10:00～15:00
会場	京都工芸繊維大学総合研究棟 4 階多目的室 (京都市左京区松ヶ崎橋上町 1 番地)
内容	第 10 回アジア繊維会議ポストシンポジウム (Neo Fiber Technology Symposium/ Post Symposium of ATC-10/ Frontiers of Fiber and Textile Science and Design) 海外から 9 名の招待講演者を招き、次世代を見据えた繊維工学研究「Neo-Fiber Technology」についての講演、ポスター発表などを行います。

(大学サイエンスフェスタ in Tokyo)

※終了しました

開催日	平成 21 年 11 月 20 日(金)～11 月 29 日(日) 9:00～17:00(金曜日は 20:00 まで)
休館日	毎週月曜日(ただし、11/23(月・祝)は開館、翌 11/24(火)は閉館)
会場	国立科学博物館 地球館地下 1 階 特別展示室 など (東京都台東区上野公園 7-20)
入館料	通常入館料で入場可 一般・大学生：600 円 高校生以下：無料
プログラム	「エコの未来をデザインが拓く」- 科学と芸術の融合・エコをデザイン！- ○展示 「石油の時代からバイオマスの時代へ」 バイオマスから作るプラスチック(ポリ乳酸)に関する研究内容を、20 世紀の石油時代からの変遷とともに紹介します。 第二会場では、おもしろ科学教室を開催するとともに、京丹後市の風土・物産をご紹介します。 展示ブースは本学学生が全体をデザインしたもので、ウッドデッキに、京丹後市の名産品である「丹後ちりめん」、フラクタル構造を持つ日よけ「シェルピンスキーの森」を配置しています。 ○講演会 ・「次代へのデザインインスペクション- サステイナブルスタイル価値創造にむけて-」 日時：2009 年 11 月 20 日(金)13:30～17:30 会場：国立科学博物館 講堂(日本館 2 階) ・繊維科学センター第 3 回東京地区講演会「ナノテクノロジーに基づく新しい繊維プロセス技術」 日時：2009 年 11 月 26 日(木)13:15～17:45 会場：国立科学博物館 講堂(日本館 2 階) ○Home Coming Day(東京地区同窓生懇親会) 日時：2009 年 11 月 21 日(土)17:30(予定)～ 会場：国立科学博物館 地球館中 2 階 展示室エリア レストラン「ムーセオン」

●大学創立 60 周年記念誌の刊行等

記念誌の刊行と記念事業 DVD を作製します。

●松ヶ崎 KIT 会館(仮称)の新営

本学の同窓会「京都工大会」、「衣笠同窓会」、「京都工芸繊維大学同窓会」の会員や本学教職員(元教職員を含む)が利用できる建物を新営します。

※新同窓会パビリオン設計競技(審査結果が出ました)

●本学の歴史的資料の展示室の整備

建学以来の歴史的資料をまとめた展示室を整備します。

●教育研究環境の整備

キャンパス内の学習環境や研究基盤の整備を図ります。

●京都工芸繊維大学基金の充実

人材育成基金事業の充実を図ります。また、寄附者が指定された事業については、目的に沿った形で教育研究の遂行に役立てます。

## Home Coming Day(東京地区同窓生懇親会)を開催

京都工芸繊維大学広報センター

11月21日、Home Coming Day(東京地区同窓生懇親会)を東京・上野の国立科学博物館のレストラン「ムーセオン」において開催しました。

このHome Coming Dayは、京都で開催される同窓会などに出席する機会の少ない関東地区に居住する同窓生が、母校に思いを馳せ旧交を温める機会とすることを目的に、大学創立60周年を記念して国立科学博物館に出展していた「大学サイエンスフェスタ」の会期に合わせて開催したものです。

訪れた同窓生は、Home Coming Day 開式までの時間を利用して本学の展示を観覧し、懐古の念を新たにするとともに、本学の現在の教育研究内容を興味深げに見学していました。

今回のHome Coming Dayでは、大学の本拠地である京都から遠く離れた東京で開催されたにも関わらず、前身校時代の卒業生から平成の卒業生まで幅広い年代の同窓生が出席し、学長及び理事をはじめ「大学サイエンスフェスタ」のスタッフである教職員・学生も交え総勢約80名の盛大なものとなりました。



開会の挨拶を行う同窓会会長代行の松原藤好氏



同窓会顧問の古川敏一氏の音頭による乾杯

## 本学で受け入れた洛北高等学校生が研究発表会で、最優秀である文部科学大臣表彰を受けました

京都工芸繊維大学広報センター

本学では、地域社会への“知の還元”を目指して、小中高校の理数教育プログラムであるSPP(サイエンス・パートナーシップ・プログラム)やSSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業を積極的に受け入れてきましたが、この度、平成20年8月に受け入れた京都府立洛北高等学校(SSH指定校)のグループが文部科学大臣表彰を受けました。

表彰を受けたのは、本学浦川宏教授の研究室において「天然染料を使ったインクジェット印刷」の研究テーマに取り組んだ3年生(受入当時は2年生)5名のグループです。生徒たちは、今年8月上旬に横浜で開催された「SSH生徒研究発表会」に、洛北高等学校の代表として出場し、口頭発表を行った31校のうち最も優れているとして文部科学大臣表彰を受けました。

また、8月26日には、(独)科学技術振興機構が提供するCS放送番組「サイエンスチャンネル」の制作取材のため、生徒たちが再度本学を訪れ、実験を再現しました。生徒たちが取り組んだ研究は、伝統的な染色技術において染料を布に定着させるのに必要な「媒染」という工程を、インクジェットプリンタを用いて行うことにより複雑な模様を効率良く染めることができることを明らかにするもので、下地染めやインクジェットプリンタでの媒染、データの入力作業などを再現しました。

生徒たちと浦川教授は、当時の苦労や研究の発展についての話に花を咲かせ、取材は終始和やかに進みました。

生徒たちは取材に対し、「視野が広がった。貴重な体験。」「実験は行ってそれで終わりではなく、結果を伝えていくことが大事。」と語っていました。



SSH 生徒研究発表会で表彰を受けた生徒たち



番組の取材を受ける生徒たちと浦川教授

## 平成21年度「京都府名誉友好大使」 に本学の留学生が任命されました

京都工芸繊維大学広報センター

6月19日、京都府公館で開かれた京都府開庁記念日記念式典の一環として、平成21年度「京都府名誉友好大使」任命式が開催されました。

本学からは、博士前期課程先端ファイブロ科学専攻1年次生のPUREVDORJ ARIUNDARI(プレブドルジアリユーンダリ)さんが任命されました。

平成21年度は合計15名の府内在学の留学生が任命され、式典では、大使一同と京都府知事、および大学関係者等での記念撮影が行なわれました。

京都府による「京都府名誉友好大使」の任命事業は、平成4年度に開始されました。毎年、府内在学の留学生の中から、京都府と世界各地との相互理解の促進や京都府の国際化の推進等に寄与しようという意欲のある者が大使に任命され、府が行う各種の国際交流事業に参画しています。



式典の様子



山田京都府知事(左)と大使に任命された本学留学生(右)

## 本学留学生らが国立文楽劇場で 「文楽鑑賞教室」に参加しました

京都工芸繊維大学広報センター

本学では、在籍する外国人留学生に日本文化に触れる機会を与えるための様々な取組を行っています。その一環として、6月6日に大阪の国立文楽劇場において開催された「文楽鑑賞教室」に、本学留学生24名と国際企画課職員4名が参加しました。

プログラムは、演目「二人三番叟」、解説「文楽へようこそ」、演目「傾城恋飛脚新口村の段」の3部構成となっており、「文楽へようこそ」では、芸芸員から大夫・三味線・人形遣いのそれぞれの役割について、実演を交えたわかりやすい解説が行われました。

実際に舞台へ上がって人形遣いを体験できる「体験コーナー」もあり、体験した留学生からは、「緊張した。楽しかったが、難しかった。」との感想が聞かれました。

文楽は、能楽、歌舞伎とともに日本の三大国劇の一つに数えられ、優れた伝統芸能として国の“重要無形文化財”に指定されています。今回の文楽鑑賞教室は、留学生にとって日本文化に触れる貴重な体験となりました。



「体験コーナー」で体験する留学生(右から3番目)



国立文楽劇場前での集合写真

## 大学ロボコン2009に、本学チームの出場が決定しました！

京都工芸繊維大学広報センター

本学の ROBOCON 挑戦プロジェクトチームは、4月に行われたビデオによる第二次選考を通過し、6月7日に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される「NHK 大学ロボコン 2009」に出場することが決定しました。本学チームの出場は3年連続となります。

昨年はマシントラブルなどの不運に見舞われ、残念ながら決勝トーナメント進出はなりませんでした。今年、今年は連続出場の実験を活かした完成度の高いロボットで大会に臨みます。

なお、本学では、ものづくり教育の一環として、学外でのイベントや出展に向けて学生と教員が協力するプロジェクトを財政的に支援しており、「大学ロボコン」優勝を狙う ROBOCON 挑戦プロジェクトもそのひとつです。



昨年の大学ロボコン 2008 に出場した本学チーム

## 大学ロボコン2009で、本学チームが「特別賞」を受賞しました！

京都工芸繊維大学広報センター

本学の ROBOCON 挑戦プロジェクトチーム「KIT ドラゴンズ」は、6月7日、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された「NHK 大学ロボコン 2009」に出場しました。

予選リーグ2位(1勝1敗)で惜しくも決勝トーナメント進出はなりませんでした。任天堂株式会社の特別賞を受賞し、出場3年目にして初入賞の快挙をえました。

今年の競技課題は「旅は道づれ 勝利の太鼓を打て」。2台のロボットが担ぐ籠に自走式のロボット(旅人)を乗せ、峠(坂道)や林(林立したポール)などの障害を乗り越え、籠から下りたロボットが太鼓を叩くことができればゴールという難易度の高いものでした。

本学チームのロボットは、出場チームの中で唯一、籠を空中に浮かべたまま自走式ロボットが乗り込む仕組みとなっており、多くの大学が籠の上げ下ろしに苦戦する中でスムーズな乗り込みを見せた本学チームは、大いに会場を沸かせました。



健闘を見せた本学チーム



「特別賞」を受賞

「NHK 大学ロボコン 2009～ABU アジア・太平洋ロボコン代表選考会～」には、第一次選考(書類選考)、第二次選考(ビデオ選考)を通過した国内の大学20チームが出場しました。優勝・準優勝の2チームが、日本の代表として8月に開催される「ABUロボコン 2009」に出場します。今年の開催地は日本(東京)。競技課題「旅は道づれ 勝利の太鼓を打て」は日本の伝統文化にちなんだものになっています。





## 最終年度を迎えた特色 GP

並木 誠 士  
(造形工学部門 教授)



「科学と芸術の出会い I」を中心とする教育プログラムが2007年度文部科学省の「特色ある教育支援プログラム」(特色 GP)に採択されて3年目の最終年次を迎えました。

2009年度の「科学と芸術の出会い I」も、これまで同様ピンホールカメラの製作とピンホール写真の撮影をおこないました。9月25日に講義とピンホールカメラの作り方についての説明をおこない、28日29日の両日でカメラの作成と撮影に取り組みました。443名の学生が参加して、74チームにわかれて実習をおこないました。新型インフルエンザの流行と小雨交じりの天候で、直前まで開催できるかどうか不安でしたが、なんとか無事に撮影もでき、29日の学内での展示のときには陽も差してきました。

2009年度のテーマは「ピンホールできりとる風景」でした。広角、パンフォーカスと長い露光時間というピンホールカメラならではの特性をいかした撮影をして、それによりなげない風景の新しい見え方を呈示するという課題です。今年度も、テーマをどのように理解し、どこをどのように撮影するかというコンセプトについてのチェックを導入しました。初日の講義で学んだピンホールカメラの原理をきちんと理解したうえで被写体を選ぶことが、今回のポイントでした。

そのうえで、2009年度の新しい試みとして、露光時間試験片のより効果的な活用とカメラを黒く塗るという2点を試してみました。2008年度に導入した試験片の精度をさらに向上させると同時に事前講義で試験片の仕組みを十分に説明し、露光時間をより細やかに設定できるように指導しました。また、従来のように段ボールでつくった巨大なカメラの内側だけを黒く塗りつぶすだけではなく、外側も黒く塗りつぶすことにしました。これは、学内展示において平置きを試み、展示の際、オブジェのように見える効果を狙うという理由のほかにカメラ本体の補強という意味もありました。

9月29日に学内で展示をした際に、実行委員会による学長賞1点、コンセプトのチェック

をした教員によるコンセプト賞2点、技術面の指導をおこなった教員によるテクニカル賞2点と学生の人気投票による5点を選びました。ダブルで受賞した作品もありました。

作品展は、10月22日から28日まで、学内の東1号館2階、3階のギャラリー moco でおこない、多くの方々に見ていただきました。展示期間中にオープンキャンパスもあり、京都工芸繊維大学を志望する高校生たちに、実習の様子を映したビデオとともに作品を見てもらったことはとても良かったと思います。平置きで俯瞰して見る大きなピンホール写真には、独特の魅力がありました。

3年間の特色 GP のプログラムの集大成として、これまで2年間のピンホール写真の優秀作品と今年度の受賞作品を合わせて展示する試みを、12月14日から20日まで、古刹建仁寺の禅居庵で開催しました。今年度も造形工学部門の阪田准教授が素晴らしい展示空間をつくりだしてくださいました。設営、展示作業ともに大がかりで大変なものでしたが、禅宗寺院の張りつめた空間に展示された白黒のピンホール写真は、芸術表現のあらたな可能性を示していました。禅居庵では、学生作品を展示するだけでなく、方丈のふたつの部屋を、部屋ごとピンホールカメラにするという大胆な試みに挑戦し、大成功をおさめました。暗い部屋にじっと座っていると次第に外の景色がパネルに映っているのが見えてくる部屋と、複数のピンホールカメラを部屋のなかに積み上げて壁をつくり、そのそれぞれのピンホールカメラに貼られた和紙に庭の様子が浮かび上がるのを内側から見る部屋ができました。これは一種のアートと言ってもよ





いような素晴らしさで、場所柄フラッと訪れた外国人なども感動していました。

ピンホールカメラの作成とピンホール写真の撮影という実習の形式は、「科学と芸術の出会い」の体験としては、とても良くできたものだと思いますし、年度ごとの改良の試みは功を奏していると感じます。その「見せ方」についても、たんに作品を並べるだけではない工夫が見る人の目を楽しませ、また、驚かせています。対外的に大学の活動を示すことにも役立っていると思います。多くの方々のご協力とご苦勞の結果であるこの活動の成果を学生が十分に活かしてくれることを祈っています。

さて、今年度も、昨年度に引き続き「科学と芸術の出会いⅡ」では6人の講師に来ていただき、学生に対して、「科学と芸術の出会い」の最前線のトピックスを話していただきました。

「都市祭礼の演出技術」(中嶋節子/京都大学大学院人間・環境学研究科准教授)、「建築の復元と復元」(清水重敦/奈良文化財研究所文化遺産部研究員)、「写真画像の劣化要因と写真保存の実際」(山口孝子/東京都写真美術館学芸員)、「デジタルデータで変わる、博物館展示の新しい波—イラストからインタラクティブなマルチメディアへ—」(鋤柄俊夫/同志社大学文化情報学部准教授)、「感覚のしくみを利用した新しいイ



ンタフェース技術とその知覚体験」(渡邊淳司/日本学術振興会特別研究員 PD/NTT コミュニケーション科学基礎研究所客員研究員)、「「質感」を科学する—質感の画像統計解析—」(本吉勇/NTT コミュニケーション基礎科学研究所主任研究員)というように、歴史系から視覚や知覚の話題まで充実した話が続き、われわれ教員にとってもとても刺激的でした。学生にとってももちろん実りの多い講義だったと思います。

そして、今年度は3年目ということで、「科学と芸術の出会いⅢ」が始まりました。「科学と芸術の出会いⅠ・Ⅱ」を受講し、さらに、Ⅱで三本のレポートがいずれもA判定であった学生を対象にⅢの受講についての希望をとったところ、最終的に3名の学生が残りしました。それぞれ、卒業研究のテーマのなかに「科学と芸術の出会い」を模索して、1年間研究を続けました。この同窓会誌が刊行される頃には、彼らはそれぞれの成果を踏まえて新しい研究や仕事に取り組んでいることと思います。

「科学と芸術の出会い」のⅠ・Ⅱ・Ⅲという流れは、大学における教育が各自の研究の萌芽となってゆく流れでもあります。本学の特徴を活かした研究として結実をすることがあれば素晴らしいと思います。

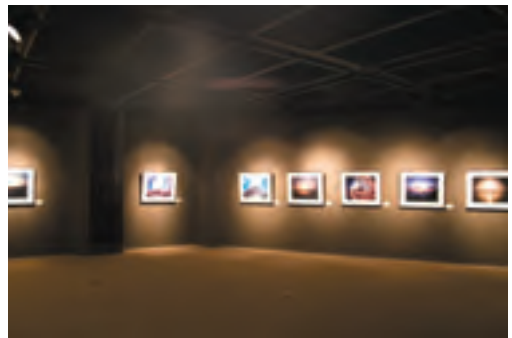
以上のようなカリキュラムにのっとった科目





とは別に、今年もまたさまざまなイベントを実施しました。

4月には、美術工芸資料館との共催で、ピンホール写真芸術学会の協力を得て「ピンホールカメラで出会う〈科学と芸術〉」展を開催しました。実習でピンホール写真を撮影する学生たちに、プロの作品を見てもらおうという企画でした。秋にはやはり美術工芸資料館との共催で、資料館を会場として「アート&テクノロジー展」という展覧会を開催しました。現代美術のなかにはさまざまなテクノロジーを用いた芸術表現が見られることは良く知られています。つまり、現代美術は、じつは「科学と芸術の出会い」



い」のひとつの見本でもあるのです。このような観点から、美術工芸資料館の平芳准教授に、テクノロジーを駆使したアートを制作して現在第一線で活躍をしている3人の若手アーティストを選んでいただき、美術工芸資料館の1階ホールと2階の展示室4室を提供して、テクノロジーを用いた現代美術を展示しました。インスタレーション的な展示が、これまでの美術工芸資料館にはなかった空間を生み出しました。関連企画として開催したシンポジウムとライブパフォーマンスも好評でした。

これらの実習や講義、展示やシンポジウムを通して、学生たちは、自分たちの身近なところに「科学と芸術の出会い」がいろいろな顔を見せて存在していることに気づいたはずですが、特色GPによる成果を踏まえ、来年度からは「科学と芸術の出会い」の新しい一歩がはじまります。私たちは、これからも科学と芸術の多様な出会いを模索してゆきたいと考えています。

# 「建築家・本野精吾展ーモダンデザインの先駆者ー」の開催

笠原 一人

(造形工学部門 助教)

去る2010年1月18日から3月11日まで、本学美術工芸資料館にて「建築家・本野精吾展ーモダンデザインの先駆者ー」が開催された(図1)。京都工芸繊維大学同窓会の事務局が存在した本学3号館の設計者である本野についての、日本(世界)で初の展覧会である。筆者は「企画総括」を担当した。ここでは本野について紹介した上で、本展覧会について報告する。

本野精吾(1882-1944)は、東京帝国大学建築学科を卒業後、京都高等工芸学校(現・京都工芸繊維大学)教授であった武田五一の招きによって、1908年に同校図案科教授に就任した人物である。その後2年半のドイツ留学を挿んで、35年間同校のデザイン教育をリードしながら、建築家やデザイナーとして多彩な活動を行った。1927年には「日本インターナショナル建築会」を設立し、1933年に同会の会員だったドイツ人建築家ブルーノ・タウトの来日を実現させ、桂離宮を始めとするタウトの「日本美の再発見」のきっかけを作ったことでも知られている。

建築作品では、西陣織物館(現・京都市考古資料館/1914年/図2)、本野精吾自邸(1924年/図3)、京都高等工芸学校校長だった鶴巻鶴一郎(現・栗原博典邸/1929年/図4)、京都高等工芸学校本館(現・京都工芸繊維大学3号館/1930年/図5)の4作品が京都に現存しているだけで

ある。しかし近年その評価が高まり、本野邸と鶴巻邸がモダニズム建築の保存に関する国際組織 DOCOMOMO の日本支部から優れたモダニズム建築として選定され、残りの2作品が国や市の登録文化財となるなど、現存するすべての建築作品が「文化財」として評価されている。

本野の特徴は、機能性や合理性を追求し装飾を排したモダニズム建築を、日本でいち早く実現させたことにある。1924年に竣工した本野邸は、建設の合理性に優れたコンクリートブロックを用い、かつ徹底した機能性を追求した住宅である。理論と技術と表現すべてを追求した、日本で最初のモダニズム建築だと言っても



図3 本野精吾自邸



図4 鶴巻鶴一郎(現・栗原博典邸)



図1 本野精吾展 展覧会場



図2 西陣織物館(現・京都市考古資料館)



図5 京都高等工芸学校本館(現・本学3号館)

過言ではない。1929年にも同じブロックを用いながら、造形豊かな鶴巻邸を実現させた。

興味深いのは、本野の活動が建築に留まらないことである。その活動は、家具(図6)、舞台(図7)、食器(図8)、工芸、グラフィック、衣装(図9)にも及んだ。東京・伊豆大島間に就航し、流線形の姿が人気を博した客船「橘丸」(図10)の船体デザインも手がけた。また広告デザインの研究団体「プレスアルト研究会」を設立し、エスペラント語の普及に努め、南画を嗜み、西洋音楽の普及にも貢献した。その活動の幅広さは、現在の本学造形工学部門やデザイン経営工学部門の教育に引き継がれていると言える。

本野の作品は、通常のリモダニズムのイメージでは捉え難いものが多い。それはリモダニズムの確立に向けて試行錯誤した、先駆者ならではのものであろう。本野が伝統と学術の街京都を拠点にしたことも興味深い。京都だからこそ、大衆におもねることなく理論を突き詰め、伝統を打ち破る新しい理念や技術、表現を追求できたと言える。一方で細部に伝統的な技術や装飾が生かされていることもある。それは東京を中心に普及したリモダニズムのあり方とは異なる。

本野を通して見えてくるのは、近代の方法や社会が、個人の試行錯誤の積み重ねを経てようやく成立したことである。それは、近代が個性豊かな創造性を内包していたことを意味してい



図9 舞台衣裳デザイン(本学美術工芸資料館蔵)

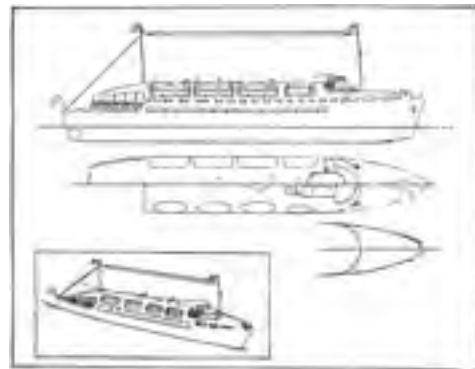


図10 「橘丸」船体デザイン(『京都市高会会報』第27号所収)



図6 家具デザイン(本学美術工芸資料館蔵)

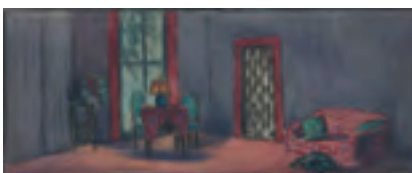


図7 舞台デザイン(本学美術工芸資料館蔵)



図8 「フルーツパーラー八百常」食器デザイン(木ノ下喜雄蔵)

る。本野を掘り起こすことは、近代を再考する契機になるとともに、その延長にある現在を問い直す手がかりともなるだろう。そこに、今改めて本野に着目する意味があると言える。

本展覧会は、新聞数紙やNHK教育の「日曜美術館」でも紹介されるなど、従来ほとんど知られていない人物の展覧会としては、異例の反響を得た。来館者からも一様に高い評価を得た。藤森照信氏(建築史/東京大学教授)、宮島久雄氏(近代デザイン史/前・国立国際美術館館長/元本学教授)、西澤英和氏(建築保存工学/関西大学准教授)を招いて2月13日に開催したシンポジウムは、250名以上の来場者により100名ほどの立ち見が生じる大盛況となり、内容的にも大変盛り上がった。

本野本人の活動のユニークさと幅広さがもたらした結果ではあるが、今回の展覧会に先立って多数の貴重な資料を本学美術工芸資料館に寄贈いただいたご遺族や、現存する建物の当主らのご協力のおかげであることも申し添えておきたい。

なお、本展覧会では図録を作成した。本野の作品や活動を網羅している。214頁、カラー刷り、掲載図版約500点、初公開資料多数。入手希望者は075-724-7924(同資料館)まで。

## 電子システム工学課程主催小中高生科学技術教室 「FM ラジオを作ってみよう」

電子システム工学部門准教授 比村 治彦

今年度より実施内容と日数を完全に一新した上で、平成21年8月4日(火)、学部前期試験期間の終了後に開催しました。暑い時期でしたが、京都市を中心に京都府、大阪府、滋賀県、奈良県にお住まいの小5から高1まで、約100名の方々から応募を頂きました。7号館1Fの73学生実験室に設置しているワークベンチの台数の都合上、心苦しい限りでしたが応募者の中から抽選で32名の方を選ばせて頂きました。

題材については、さまざまな角度から検討を重ねた結果、電子システム工学課程所属の専任教員が担当している全教育研究分野の基本コンセプトを広く包含している「FMラジオ」を選定しました。現代の科学技術は高度に発展しておりその最前線は遠く、またそこにたどり着くまでの道のりには非常に長いものがあります。実際、今日では身近な携帯電話を見てみても、その構造は極めて高度に集積化され、かつ、動作がブラックボックス的なために、小中高生にとって理解は容易ではありません。このような難解さが電子系離れの大きな要因の一つになっています。しかしながら、高度な科学技術も一旦それを要素還元すれば、それらは初学生が初期に学ぶ基本要素の集合です。FMラジオ製作を通じて、基本知識を用いて最先端機器の理解が進められる醍醐味を小中高生に味わってもらう事を意図しました。

具体的内容：以下の3部構成で行いました。

### (1) 講義(午前の部)

吉本課程長より電子システム工学部門の説明と私達の暮らしに役立つ電子と未来について解説が行われました。夢のあるパワーポイントファイルに私も引きつけられてしまいました。引き続いて、秋山先生より自然界における電磁気現象とその暮らしへの応用、特に無線通信についての講義が行われました。この講義では秋山先生の工夫が随所に見られていました。特筆すべき点は教机の上に置かれた器材によるデモ



実験であり、参加者と保護者によるアンケートにもこのデモ実験に対する驚きの声が寄せられていました。

### (2) 研究室見学(午前の部)

これら基本要素が最先端の研究開発においても重要である事を研究室見学により実感してもらいました。受講生と保護者を合わせた全員を3グループに分けて、山下兼先生、山下馨先生、高橋先生に引率して頂きました。



### (3) 製作実習(午後の部)

講義で履修した学術的原理が実際にどのような電子部品の組み合わせにより機器へと具現化されていくのか、受講生が半田ごてを片手に自ら電子工作を行い、FMラジオ回路を組み立てる事で講義の内容を生きた技術知識として体得してもらいました。屋外でαステーションを受信してスピーカーから音声が出てきた時の受講生の喜びの顔を見た時、栗辻先生、上田先生、そしてTAとして手伝ってくれた大学院生4名(田中、中村、石川、佐知)と私により構成された実施スタッフ一同の苦労も実りました。



最後に、抽選など事務業務を一手に行った下さった電子情報事務室の中原さん、高櫻さん、各府県の教育委員会への後援依頼、本学案内パンフレットの最新号を準備して頂きました総務企画課広報室の小松さんに感謝申し上げます。

# 小中学生のための科学技術教室(夏休み体験学習) 『コンピュータのしくみ～マイコンで光を操ろう!』

情報工学部門准教授 平田博章

情報工学課程では、旧電子情報工学科の頃から、毎年8月に、夏休み体験学習として科学技術教室を開催しています。前年度までは電子システム工学課程との共催で中学生・高校生を対象に実施していましたが、今年度は、情報工学課程の完成年度(本課程の最初の入学生が4年生になります)に当たりますので、内容を刷新して単独で実施することにしました。

「コンピュータのしくみ～マイコンで光を操ろう!」と題して、2009年8月4日(火)に科学技術教室を開催しました。小学5年生から中学3年生までの年齢層を対象に「コンピュータのしくみを学び、実際に光のイルミネーションをプログラムしよう! 君だけのオリジナルライトが作れるよ!!」と30名を募集したところ、京都、滋賀、大阪、兵庫、静岡の各府県から計73名の参加申し込みがありました。また、父兄や中学校の先生から実施内容についての問い合わせがあるなど、関心の高さが感じられました。

当日は、まず、部門長の黒江康明教授による挨拶の後、辻野嘉宏教授の「コンピュータのし



くみ」についての講義を受講してもらいました。辻野先生は、実際にデスクトップパソコンのケースを開けて内部を見せながら、コンピュータの構成や動作についてやさしく説明して下さいました。1時間強の講義時間中、参加者は、静かに、また、息を呑むように、辻野先生のお話に聞き入っていました。今の小中学生にとってパソコンはけっして珍しいものではありませんが、実際にケースの内部の様子を見て、その動作の仕組みに思いを馳せるのは非常に刺激のあることのように、アンケート調査などからも「内部を見て感動した」など好評であったことがうかがえます。

次に、荒木雅弘准教授から、マイコンとそのプログラムでLEDの点灯を制御する方法についてのより具体的な説明があり、最後は、いよいよ実習です。参加者だけではなく、その保護者や付き添いの兄弟も一緒に実習していただき、また、2組に1人の割合いで大学院生のアシスタントをつけました。お手伝いいただいた大学院生のほとんどは、大学の実験・演習科目で



ティーチングアシスタントの経験がありますが、小中学生が相手ということで、また違った経験ができたようです。

実習用の教材には、マイコンとフルカラーLEDが搭載された小型の専用ボードを用いました。ノートパソコンで赤、緑、青のそれぞれの光の強さの変化をプログラムし、これを教材の専用ボードにダウンロードして実行することで、LEDの色の変化を楽しめます。実際に光の色を配合しながら「光の三原色」についてのひとつの実験を行なった後、各自で思い描く光を演出するためのプログラミングに取りかかりました。思い通りに色を変化させるには試行錯誤が必要ですが、きれいに光の色が移り変わるライトに仕上がったときには感激した様子でした。

アンケートの結果では、「難しいと思っていた技術を身近に感じる事ができた」「自分にも理解できるものだとわかった」などの感想が多数寄せられ、また、アンケート用紙の余白に「親子で充実した時間が過ごせた」「来年も企画してほしい」などの父兄からの意見が書き込まれたものも少なくありません。後日、父兄から「家に帰ってからも、自宅のパソコンでプログラムを変更して楽しんでおり、より発展的な教材の使い方を試させてみたい」とのことで、非常に専門的な内容のお問い合わせをいただいたケースもありました。

この科学技術教室は、昨今の理科離れに対する危惧から実施したのが始まりだったと記憶しています。若い世代に科学に対する関心や興味を湧き起こさせることはもちろんですが、そのための環境づくりという点では、本人だけでな



教材を使用した作品例

く親も含めて科学や技術と一緒に慣れ親んでもらうことの重要性を感じました。

今回の参加者は、各自の将来の進路を決めるにはまだ若過ぎます。必ずしも情報工学の分野に進むとは限らないかもしれませんが、今回の参加が、将来に理科系の分野に足を踏み入れて活躍してくれることにつながればと願っています。



## 第13回 物質工学課程「大学一日体験入学」だより

物質工学部門准教授 池田裕子

「新型インフルエンザの影響で今年の開催は無理かなあ!?!」と言う心配の中、平成21年8月4日、無事、物質工学部門主催の大学一日体験入学を終了でき、ほっと胸をなでおろした。本年度は、先ず、一ノ瀬教授が実験器具を会場に持ち込まれたの実演つきで「分子を光で調べる、光で動かす」という授業をしてくださり、大いに盛り上がった。午後からの実験では、次の4つの内容に別れて実習した。(1)「染付けとかけて機嫌のよいときのお天気ネコと解く…その心は? -Coの秘密-」ピンク色の溶液に塩酸を加えると濃い青色に、水を加えるとまた元のピンク色に。(2)「不思議な光る分子 -緑のラインマーカーの色素を作ろう-」有機色素の合成を通して、有機化合物の構造と色との関係を理解します。(3)「実感、3D! ホログラムを撮る! -物理と化学の巧みな連携-」レーザー光(コヒーレント光)の重なり、酸化還元反応…ホログラムを自作して3D画像を手に入れよう。(4)「今日から君も名探偵 -科学捜査に挑戦-」人を形作る分子の特徴的な反応を利用した科学捜査を模擬体験しよう! 担当の先生方は、高校生や中学生の心に食い込むキャッチフレーズを付けてくださり、授業も大変、熱のこもった楽しいものであった。

参加者56名のうち、約75%が高校生、残りが中学生、高校生は2年生が約60%と一番多く、さすがに3年生は少なかった。化学好きだから参加した高校生は約50%、中には嫌いだけど学校の先生に言われたので、また、夏休みの宿題だからという理由で参加した者もいた。



さらに、高校生の85%はこれまでこのような大学体験入学に参加したことは無く、初めて本学で参加できたこと、この催し物を通じて約40%の高校生が初めて本学KITを知ったこと、化学や物質への関心が高まったこと、講義内容や進路よりもっとKITの研究内容を知りたいことなどがアンケート調査で判った。本事業は本年度で第13回を数え、対象は高校生・中学生で、生徒自らが実験器具や薬品や分析機器を実際に操作・使用して化学実験を行うとともに、本課程の物質科学に関する体験講義を受講し、物質工学部門の研究室を見学することである。同時に、中高生教育における科学啓発と中高連携に係る大学開放事業としての側面を持ち、大学と地域社会との関わりを深めて本学の存在意義を積極的に広報することも目的とした。従って、アンケート結果は十分に本事業の成果を示すものとなる。

私事であるが、ただ今担当の修士1年生の男子学生は、「第8回大学一日体験入学」で私が行った「身近なゴムの科学-いろいろなゴムがあるのだなあ-」を高校生の時に受講したそうである。それを知った時は本当に感激した。第13回参加者にも近い将来、KITで再会できることを祈願する。

最後になりましたが、本年度ご担当の先生方をはじめ、本事業を支援して下さったKITの関係各位、高度技術支援センターの職員の方々に心から御礼を申し上げます。既に、委員長は交替し、来年度14回目の企画が始まっています。皆様、来年度もよろしく申し上げます。

# 応用生物学課程体験入学 2009

応用生物学課程准教授 北島 佐紀人

応用生物学課程では、高校生、予備校生、専門学校生などを主な対象として大学の模擬講義を開催している。その目的は、筆者の理解によると、高校とは様々な意味で趣の異なる大学の講義を体験してもらうことと、最先端のトピックを交えて生物学研究の面白さを伝えることである。もちろん、講義内容に興味を持った高校生が将来本学に入学することを多少期待している。

2009年の体験入学は、7月18日(土)に開催された。参加人数は38名である。講師は筆者と片岡孝夫の2名で、それぞれ「植物生理学入門：光合成の不思議」「細胞工学の最前線：動物の生理機能を利用する」と題する一時間弱の講義を行った。参加者にも馴染みの深い植物と動物を題材としたわけである。前者では、高校生物レベルの光合成の話に始まり、光刺激に応じて細胞内で葉緑体が動くこと、葉緑体の起源が太古の昔に細胞内に共生したラン藻であること、コンブは植物細胞が別の細胞に2次共生して生じたこと、近年発見された謎のプランクトン「ハテナ」は、細胞内に共生した藻類が今まさに葉緑体化しつつある生物であることなどを紹介した。後者の講義では、生体防御として重要な免疫システムの仕組みについて、大学レベルの内容を少し含めながら概説した後、最近注目されている抗体医薬について、細胞融合法を用いたモノクロナール抗体の作製法の原理や完全ヒト抗体の作製法に関する最近のトピックを紹介した。



休憩を挟んで2つの講義が続いたので、聞く側は楽ではなかったであろうが、講義後に書いてもらったアンケートを見ると、概ね楽しんでくれたようである。中には、もっと長時間の講義を希望している参加者もいた。講義の難易度については、調度良い、あるいは、少し難しい、との返答が大多数であった。しかし、専門学校生や、高大連携等で大学教員の講義を聞く機会のある高校生には物足りなかったようである。一方で、授業で生物を選択していないという高校生も少なくなかった。少し難しいと感じるぐらいが丁度良いのではないかと筆者は考えているが、多様なバックグラウンドをもつ参加者が混在する中で、講義レベルをどう設定するかは難しいところである。ただ、わざわざこのような体験入学に参加してくれるのだから、きっとバイオに興味があるし優秀な生徒達なのであろう。彼ら全員が満足できる講義をできるように筆者ももっと精進したいところである。

# 創造性豊かなものづくり体験学習 2009

機械システム工学部門准教授 山 川 勝 史



夏休みに毎年開催しています「創造性豊かなものづくり体験学習」も、本年度で11年目を迎えました。子供達を書いた絵をCADに落とし込み、レーザー加工機にてステンレス板を切り取って時計を制作する「レーザー加工機による芸術作品制作」。蠟を思い思いの形状に加工し石膏で型取った後、隙間に熔融金属を流し込んで金属のオブジェを制作する「ロストワックス法による金属作品制作」。今のこのプログラムになってからは7年が経ちました。当初は小中高校では味わえない大学ならではの内容を体験して頂くことで、少しでも大学の機械科に興味を持っていただくとの考えでしたが、最近では小学校低学年を中心に高学年と中学生がパラパラ。そのせいか保護者の参加が凄く多くなりました。保護者の参加が増えますと口コミで噂が広がり、また本大学のPRにも一役買ってくれているようです。そして最近では「体験学習に参加したことありますよ」という本機械システム工学課程への入学者まで出てきて、これまで継続開催してきた成果がぼちぼち現れてきているようです。

さて、今回は「安全」に関するお話を少ししようと思います。主催者側として一番気になること、気にすべきことは、“如何に安全に実施できるか”です。一人でも怪我人が出たら、本当にやらない方が良かったということになり



ます。特に金属を多用する本体験学習ならではの危険が数多くあります。まずレーザー加工機による芸術作品制作では、高出力のレーザーを使用します。直接レーザーを見てしまうと、目がチカチカして夜寝れなくなります。もちろん失明の恐れは十分にあるのですが、ステンレス板をレーザー打ち抜いていく工程は本体験学習のクライマックス。子供達には是非見てもらいたい箇所です。そこで特殊なゴーグルを着用して頂きます。レーザー加工機エリアへ入室する方は運転の有無にかかわらず保護者も含め全員に着用してもらっています。ロストワックス法による金属作品制作においての目玉は、やはり熔融金属を自分達が作った型へ流し込むところです。しかし高温の熔融金属は火傷の危険があります。さらに型内の残留蠟が流し込まれた高温金属による急激膨張によって、型の破裂ということも懸念されるのです。そこで流し込み作業はスタッフで行うとして、お子さん達にはフェイスカバー付きのヘルメットを着用して頂きます。また機械工場内では、何事にも興味深々。珍しいものが周りにいっぱいあるとついつい触りたくもなります。あちらこちらに進入防止柵。滑らないように足元すべり防止。プラスチック製の工具購入。怪我防止の手袋も小学校低学年用、高学年用と別々に用意等思いつくことは全て実行しております。またハードに加えソフト面も行っております。比較的高学年の多いロストワックスには2、3人のお子様あたり一人の大学院生を、低学年の多いレーザーには子供さん1人に担当の大学院生を付けています。「迷ったらまず安全最優先で！」を合言葉に安全第一で作業を進めています。大学院生にも丸2日間をかけリハールしながら作業の危険ポイントと対策を教え込んでいます。ここまでしてやっと開催となるわけです。お陰様でこれまで大きな怪我はゼロであります。今後も0災を継続していきたいですね。

## 課外活動

### ハンドボール部

主将 西野 真司  
(高分子機能工学課程 3 回生)

私たちハンドボール部は、現在部員 13 人、マネージャー 2 人で活動しています。2009 年の春季リーグでは大阪市立大学との入れ替え戦に勝利し、3 部に昇格しました。また、秋季リーグでは 4 部であった時とは違い、負けるか勝つかわからない緊張感の中チーム全体がひとつになって、見事 3 部残留を果たしました。遠い試合会場まで応援に駆けつけてくださった OB の方々には本当に感謝しています。

2010 年は個人のチームに対する意識をもっと高め、よりチーム全体が一つにまとまり、次のリーグ戦に向けて練習をしていこうと思うので、応援をよろしくお願いします。今年度の OB 会におきましても多くの方々のご参加をお待ちしております。



### 卓球部

主将 梅河内 隆成  
(応用生物学課程 2 回生)

私たち卓球部には、現在三回生 4 名、二回生 6 名、一回生 4 名の 14 名が所属し日々技術の向上を目指して熱心に活動しています。活動シーズンは、一年中です。練習も体育館で行うので雨の日には出来ないということもありません。一年間の行事や出場大会としては、新入生歓迎会、三織体育大会、秋季リーグ、松ヶ崎祭、春季リーグ、新人戦、OB 戦などが主にあります。理系の単科大学ということもあり忙しくはありますがそれでも合間をぬって部活動に参加し、皆 3 部リーグ昇格へ向けて個々の課題に取り組んでおりかつ大学として誕生して以来 60 年に渡って受け継がれてきた工織卓球部の伝統を守るよう努力しています。自分達が卒業した後「工織卓球部でよかった」と思えるように鍛錬を続けていきたいと思っています。



### 男子ラグロス部

主将 尾崎 浩光  
(電子システム工学課程 3 回生)

私たちラグロス部は去年、関西ラグロスリーグで全勝し、リーグ優勝を果たし順位決定戦で同じくリーグ優勝の追手門学院大学と対戦しました。3Q までリードしていましたが、4Q の途中で追いつかれる展開になりました。しかし、4Q 終了 5 分前にこれまでチームを引っ張ってきた 4 回生が点を決め、これが決勝点となりました。試合は 9 対 6 で勝利しましたが、とても競った試合でこれが 4 回生の最後の試合となりました。これにより目標であった 2 部昇格を果たし、今年度は強豪校がひしめく 2 部でリーグ戦を行うことが決定しました。今年度は厳しい試合が続くと思いますが、工織ラグロスの歴史でもまだ一度も達成されていない 1 部昇格に向けてチーム一同頑張っていくしますので、今年度も工織ラグロス部を応援よろしくお願いします。



### ラグビー部

部長 栗原 史佳  
(造形工学課程 2 回生)

私たちラグビー部は現在、関西ラグビーフットボール協会 D1 リーグに所属しています。昨年は残念なことに力及ばず、目標としていた C リーグ昇格をはたすことができませんでした。しかしながら、昨年は一昨年よりも部員数も増え、選手層も厚くなりつつあります。なので、今年こそは C リーグ昇格という目標を達成し、来年には C リーグでも好成績を残していけるように、より力をつけていこうと思います。

今年も OB 戦や懇談会などで、よりいっそう OB と現役との交流をはかっていき、その関係を強くしていきたいと思っています。また、選手一丸となって日々の練習を充実したものにし、今年こそ C リーグに昇格できるように頑張っていきますので、これからも応援をよろしくお願いします。

ラグビー部 HP:

[http://www.geocities.jp/kit\\_rugby\\_football/](http://www.geocities.jp/kit_rugby_football/)



## ESS

部長 中木 聖也  
(電子システム工学課程3回生)

ESSと聞けば、なんとなく英語に関するクラブ・サークルであることはわかりそうなものの、実際ははっきりとはわからないのではないのでしょうか。ESSはEnglish Speaking Societyの略で、メンバーの希望によって変わる内容で活動をしています。というのも、各メンバーが本学ESSで何をしたいか、というのが異なっているからです。以下に、現在のメンバーの活動理由をいくつか紹介します。  
「英語に触れる機会の少ない大学生活で、英語能力をさび付かせないために」  
「そう遠くない将来、世界を股にかけて働く日のために」  
「海外の雑誌や教科書を読むときに抵抗がないようにするために」  
「ただひたすらに英語が好きだから」  
このような想いに応えるためにも、活動内容は変幻自在なのです。

※写真は「北山 discussion」と呼ばれる、京都薬科大、京都府立医大のESSとの合同活動でのひとこまより



## 文藝部

部長 椋代 凜  
(情報工学課程2回生)

中央東門から入り、東一号館、二号館と抜けて体育館、その先に弓道場があって……その先には何もないんじゃないの？ 残念ながらそう思われている方も大勢いらっしゃるようですが、とんでもない。弓道場を通りすぎた突き当たり、左に曲がってすぐ目の前に見えるのが、我らが文藝部(を含む)部室棟です。

我々文藝部は、現在部員数およそ20名で精力的に活動しています。といっても文藝部の活動ですので、集まって何かを書くというわけではなく、テーマを決めてそれに関する作品を締め切りまでに書いてくるという作業になります。そうして集まった作品は、冊子「霧雨」として年に三度発行しています。これが我々の主な活動です。それ以外にも、三題噺といった取り組みや、文化祭における古本市等など、様々な活動を行っております。これからもこうした活動を通して、より一層文学を好きになっていきたいらいいと思います。



## ギター部

代表 野海 智子  
(造形工学課程2回生)

私たちギター部は、現在部員約20名で活動しています。合奏練習は週1回ですが、部員それぞれが空き時間等を利用し、部室で思い思いにギターを弾いています。先輩が後輩に熱心に指導している様子もしばしば見られます。

4月の新歓期を越えて、6月には京都女子大学クラシックギター部との合同独重奏会を行います。7月には京都学生ギター連盟の定期演奏会があり、8月の夏合宿頃から、11月の定期演奏会へ向けての合奏練習が始まります。

部員ひとりひとりに想い描く音楽があり、だからこそ意見が食い違いぶつかり合うこともあります。クラシックギターという楽器に魅了されたという点では皆同じです。自分と違う音楽の感じ方を知ること、新しい音楽との出会いであり、とても有意義なことだと日々感じています。是非、演奏会にお越し下さい。



## ボランティアサークル ONEFALL

部長 喜多 直哉  
(機械システム工学課程4回生)

“One for allひとりとはみんなのために、なにかできることを少しでも。”

これが私たちONEFALLという名前の由来です。私たちが大切にしていることは、あくまで自分のペースでやってみること。ボランティアに対する考え方は色々あると思いますが、私たちは無理なく楽しく関わることをモットーに活動しています。主な活動は、高齢者への傾聴、障がいのある方の入浴を手伝う銭湯ボランティア、登山清掃・河川清掃などを行っています。それは、地域の方々や社会とのコミュニケーション。だから、もしかすると、ボランティアというより、コミュニケーションという言葉の方がぴったりくるかもしれません。コミュニケーションに関わることで、やってみたいことがあればどんどん提案し、みんなで作画・実践していけるような、やわらかい団体です。

2009年春に設立したばかりのまだ新しい団体なので、一緒に成長を楽しんでくれればうれしい限りです。今後とも応援よろしくお願い致します。



## 叙位・教員の受賞

- 母校名誉教授 林屋慶三氏は、平成 21 年 4 月 1 日付けで正四位が授与された。
- 母校元学長・名誉教授 吉田徳之助氏は、平成 22 年 2 月 10 日付けで正四位が授与された。

所属	役職等	氏名	受賞名	授与機関	受賞日
情報工学部門	教授	柴山 潔	平成 20 年度優秀教材賞	(社)情報処理学会	平成 21. 3.11
生体分子工学部門	教授	田中 信男	American Chemical Society Award Chromatography	The American Chemical Society	平成 21. 3.24
情報工学部門	助教	福井 智宏	平成20年度電気学会優秀論文発表賞	(社)電気学会	平成 21. 3.31
電子システム工学部門	教授	小林 和淑	社団法人電子情報通信学会第 65 回論文賞	(社)電子情報通信学会	平成 21. 5.23
高分子機能工学部門	助教	増尾 貞弘	高分子研究奨励賞	(社)高分子学会	平成 21. 5.28
機械システム工学部門	准教授	江頭 快	電気加工学会全国大会賞	社団法人電気加工学会	平成 21. 6. 5
機械システム工学部門	准教授	軽野 義行	スケジューリング国際シンポジウム ISS2009 最優秀論文賞(理論賞)	ISS2009 国際プログラム委員会スケジューリング学会	平成 21. 7. 5
造形工学部門	准教授	中野 仁人	Selected for 11 International Biennale of Theatre Poster RZESZOW	The Wanda Siemaszkowa Dramatic Theatre in Rzeszow	平成 21. 7
情報工学部門	教授	柴山 潔	第 18 回日本工学教育協会賞著作賞	(社)情報処理学会	平成 21. 8. 7
電子システム工学部門	教授	小林 和淑	社団法人情報処理学会システム LSI 設計技術研究会優秀論文賞	(社)団法人情報処理学会	平成 21. 8.26
デザイン経営工学部門	准教授	小山 恵美	関西照明技術普及会賞	関西照明技術普及会	平成 21. 8.26
高分子機能工学部門	助教	増尾 貞弘	第 31 回応用物理学会論文賞(JJAP 論文奨励賞)	(社)応用物理学会	平成 21. 9. 8
高度技術支援センター	技術専門員	島袋 順二	平成 21 年度全国大学農場技術賞	全国大学農場協議会	平成 21. 9.10
先端ファブロボ科学部門	教授	森本 一成	未来の京都まちづくり推進表彰	京都市長	平成 21.10.15
情報科学センター	教授	澁谷 雄	HCG インタラクティブセッション 優秀プレゼンテーション賞	(社)電子情報通信学会	平成 21.12.10

## 教員の異動

平成22年 4 月 1 日現在

所属	職名	氏名	備考
シヨウジヨウバエ 遺伝資源センター	准教授	井上 吉博	平成 21 年 3 月 1 日昇任
大学院工芸科学研究科 (生体分子工学部門)	准教授	小堀 哲生	平成 21 年 3 月 1 日昇任
大学院工芸科学研究科	准教授	高井 重昌	平成 21 年 3 月 31 日 転任 大阪大学大学院研究科
大学院工芸科学研究科 地域共同研究センター	准教授	中森 孝文	平成 21 年 3 月 31 日 転任 経済産業省
大学院工芸科学研究科 (電子システム工学部門)	教授	小林 和淑	平成 21 年 4 月 1 日 採用 (京都大学大学院情報学研究所准教授)
研究推進本部	教授	杉長 敬治	平成 21 年 4 月 1 日 採用 任期は平成 26 年 3 月 31 日までとする (文部科学省大臣官房付)
大学院工芸科学研究科 (生体分子工学部門)	助教	和久 友則	平成 21 年 4 月 1 日 採用 任期は平成 26 年 3 月 31 日までとする
大学院工芸科学研究科 (情報工学部門)	助教	尾関 基行	平成 21 年 4 月 1 日 採用 任期は平成 26 年 3 月 31 日までとする
大学院工芸科学研究科 (電子システム工学部門)	教授	大柴 小枝子	平成 21 年 4 月 1 日 昇任
大学院工芸科学研究科 (基盤科学部門)	教授	矢ヶ崎 達彦	平成 21 年 4 月 1 日 昇任 大学院工芸科学研究科 准教授
アドミッションセンター	教授	内村 宏	平成 21 年 4 月 1 日 昇任 任期は平成 26 年 3 月 31 日までとする
大学院工芸科学研究科 (応用生物科学部門)	准教授	北島 佐紀人	平成 21 年 4 月 1 日 昇任
大学院工芸科学研究科 (生体分子工学部門)	教授	宮本 真敏	平成 21 年 4 月 1 日 配置換 (生物資源フィールド科学教育センター教授)
大学院工芸科学研究科	助教	中村 守正	平成 21 年 4 月 1 日 配置換 (大学院工芸科学研究科助手)
創造連携センター	准教授	安存子 淳	平成 21 年 4 月 1 日 任期を更新する 任期は平成 26 年 3 月 31 日までとする (地域共同研究センター 准教授)
創造連携センター	教授	山田 保治	平成 21 年 4 月 1 日 所属名変更 (地域共同研究センター 教授)
大学院工芸科学研究科 (造形工学部門)	教授	秋富 克哉	平成 21 年 7 月 1 日
大学院工芸科学研究科 (物質工学部門)	教授	池田 憲昭	平成 21 年 8 月 1 日 採用 (大阪大学大学院理学研究科准教授)
大学院工芸科学研究科 (情報工学部門)	准教授	水野 修	平成 21 年 9 月 1 日 採用 大阪大学大学院情報科学研究科助教
アドミッションセンター	准教授	山本 以和子	平成 21 年 9 月 1 日 採用 任期は平成 26 年 8 月 31 日までとする
大学院工芸科学研究科 (応用生物科学部門)	助教	吉田 英樹	平成 21 年 10 月 1 日 採用

学 科 等	職名	氏 名	備 考
大学院工芸科学研究科 (情報工学部)	准教授	森 禎 弘	平成21年10月1日昇任
大学院工芸科学研究科	助教	蓮 池 紀 幸	平成21年12月1日配置換 任期は平成26年11月30日までとする
大学院工芸科学研究科 (機械システム工学部)	准教授	射 場 大 輔	平成22年1月1日昇任
シ ョ ウ ジ ョ ウ バ エ 遺 伝 資 源 セ ン タ ー	准教授	井 上 喜 博	平成22年1月1日昆虫バイオメディカル教育研究センター准教授に配置換する
大学院工芸科学研究科 (情報工学部)	教授	稲 葉 宏 幸	平成22年3月1日昇任
大学院工芸科学研究科 (応用生物工学部)	教授	山 岡 亮 平	平成22年3月31日定年退職
大学院工芸科学研究科 (物質工学部)	教授	石 原 孝	平成22年3月31日定年退職
大学院工芸科学研究科 (電子システム工学部)	教授	秋 山 正 博	平成22年3月31日定年退職
大学院工芸科学研究科 (先端ファイブ科学部)	教授	藤 井 善 通	平成22年3月31日定年退職
大学院工芸科学研究科 (基盤科学部)	教授	米 谷 文 男	平成22年3月31日定年退職
大学院工芸科学研究科 (物質工学部)	准教授	飯 塚 泰 雄	平成22年3月31日定年退職
大学院工芸科学研究科 (機械システム工学部)	助手	井 上 康 博	平成22年3月31日定年退職
大学院工芸科学研究科 (造形工学部)	教授	岸 和 郎	平成22年3月31日退職 (京都大学教授)
大学院工芸科学研究科 (高分子機能工学部)	助教	増 尾 貞 弘	平成22年3月31日退職 (関西学院大学准教授)
大学院工芸科学研究科 (機械システム工学部)	助手	宮 崎 眞	平成22年3月31日退職
大学院工芸科学研究科 (バイオベスマテリアル学部門)	准教授	佐々木 園	平成22年4月1日採用
大学院工芸科学研究科 (バイオベスマテリアル学部門)	准教授	麻 生 祐 司	平成22年4月1日採用
大学院工芸科学研究科 (バイオベスマテリアル学部門)	准教授	田 中 知 成	平成22年4月1日採用
大学院工芸科学研究科 (情報工学部)	助教	山 本 景 子	平成22年4月1日採用
大学院工芸科学研究科 (機械システム工学部)	助教	東 善 之	平成22年4月1日採用
大学院工芸科学研究科 (数理・自然部)	教授	塚 本 千 秋	平成22年4月1日昇任
大学院工芸科学研究科 (バイオベスマテリアル学部門)	教授	櫻 井 伸 一	平成22年4月1日昇任
大学院工芸科学研究科 (バイオベスマテリアル学部門)	教授	山 根 秀 樹	平成22年4月1日配置換
大学院工芸科学研究科 (バイオベスマテリアル学部門)	教授	小 原 仁 実	平成22年4月1日配置換
大学院工芸科学研究科 (バイオベスマテリアル学部門)	教授	木 村 良 晴	平成22年4月1日配置換
大学院工芸科学研究科 (バイオベスマテリアル学部門)	教授	浦 川 宏	平成22年4月1日配置換
大学院工芸科学研究科 (バイオベスマテリアル学部門)	准教授	安 永 秀 計	平成22年4月1日配置換
大学院工芸科学研究科 (バイオベスマテリアル学部門)	准教授	青 木 隆 史	平成22年4月1日配置換
大学院工芸科学研究科 (バイオベスマテリアル学部門)	准教授	安 孫 子 淳	平成22年4月1日配置換

## 平成21年度博士学位取得者と学位論文題名

### ○課程修了によるもの (課程博士)

(平成21年9月25日授与)

申 請 者	論 文 題 目
PARINDA KHAENGKHAN (ぱりんだけんかん)	Studies on anti-amyloidogenic substances in mulberry leaf(桑葉に含まれる抗アミロイド物質に関する研究)
葛 万 銀 (ぐ わいん)	Studies of piezo-spectroscopic effect and domain structures in perovskite-type ferroelectric materials using advanced spectroscopic techniques(先進的分光分析法を用いたペロブスカイト型強誘電体のピエゾスペクトロスコピー(piezo-spectroscopic)効果とドメイン構造の研究)
守 友 連 一 (もりとも れんいち)	ファイバブラッググレーティング位相符号-復号器を用いた光符号分割多重通信に関する研究
赤 田 昌 倫 (あかだ まさのり)	顕微赤外分析法による考古出土絹繊維の材質同定と劣化状態の解析に関する研究
KOK HO KENT CHAN (こく ほ けん と ちゃん)	Morphology, Structure and Functionalities of Electrospun Fine Fibers(電界紡糸ファイバーのモルフォロジー、構造および機能性に関する研究)
木 下 敦 史 (きのした あつふみ)	コンピュータ使用環境におけるタスクの実行支援に関する研究
大 野 重 樹 (おおの しげき)	Synthesis of Well-defined Graft and Star Polymers by Atom Transfer Radical Polymerization(原子移動ラジカル重合による構造制御されたグラフトおよびスターポリマーの合成)

申請者	論文題目
蓮池紀幸 (はすいけのりゆき)	磁性元素をドーブしたワイドギャップ半導体の作製と評価
細野久幸 (ほそのひさゆき)	上部建物特性を考慮した杭基礎の被害・設計法に関する研究
中山順 (なかやまじゅん)	高齢者に配慮した商品開発手法に関する研究

○課程修了によるもの (課程博士)

(平成22年3月25日授与)

申請者	論文題目
足立慎弥 (あだちしんや)	Development of Oxazaborolidinone-Catalyzed Highly Enantioselective Reactions of Ketones(オキサザボロリジノン触媒によるケトンに対する高エンアンチオ選択的反応の開発)
井尻宏志 (いじりひろし)	カイコサイポウイルス多角体への外来タンパク質固定化とその活性評価に関する研究
永井里佳 (ながいりか)	Studies on Syntrophins and Girdin-like protein in Drosophila(ショウジョウバエにおけるシントロフィンとガーディン様タンパク質の研究)
中嶋元 (なかじまはじめ)	Nano-order control of crystal morphology of polylactides in specific environments(異なる環境下におけるポリ乳酸結晶のナノ構造制御)
平田雅之 (ひらたまさゆき)	Development of Stereoblock Poly lactides as High Performance Bio-based Polymers(高性能バイオベースポリマーを指向したステレオブロックポリ乳酸の開発)
Amalina Binti Muhammad Affif (あまりなびんていむはむだあひい)	Formation and Characterization of Macroscopically Aligned Electrospun Fibers(電界紡糸による配列型ナノファイバーの形成と物性評価)
NGUYEN THANH THUY NHIEU (ぐえんたんとういんえん)	Studies on Porphyromonas gingivalis hemoglobin receptor and some antimalarial drug candidates(Porphyrromonas gingivalis ヘモグロビンレセプターおよび抗マラリア薬候補物質に関する研究)
藤谷貫剛 (ふじたにかんごう)	Studies on Preparation of Polycarboxylic Acids by Oxidative Cleavage of Carbon-Carbon Double Bonds Using Environmental-Friendly Oxidants - Hydrogen Peroxide and Molecular Oxygen -(環境にやさしい酸化剤(過酸化水素および分子状酸素)による炭素-炭素二重結合の酸化分解によるポリカルボン酸の合成に関する研究)
伏木大輔 (ふしきだいすけ)	昆虫におけるギャップ結合関連蛋白質 innexin の研究
岡田倫子 (おかだみちこ)	Structural Analysis of Keratin Fibers by Scanning Electron Microscopy Combined with Cross-Sectional Etching Technique(繊維断面エッチング法と走査電子顕微鏡を組み合わせたケラチン繊維の構造解析)
浅尾慎一 (あさおしんいち)	非圧縮流れの移動境界問題に対する移動埋め込み格子法に関する研究
池添竜也 (いけぞえりゅうや)	RFP プラズマの MHD 特性に対する低アスペクト比化の効果
恩地拓己 (おんちたくみ)	低アスペクト比 RFP プラズマにおけるヘリカル構造の画像計測に関する研究
重森晴樹 (しげもりはるき)	察するヒューマンコンピュータインタラクション：対話型システムにおいて要求される入力作業負荷の低減を目指して
上田昭夫 (うえだあきお)	発熱を考慮したプラスチック歯車の負荷容量に関する研究
厲鳳香 (れいほうか)	RBS 梁の局部座屈とスチフナの効果に関する研究
児玉勝洋 (こだまかつひろ)	繊維強化複合材料射出成形品の表面性状に関する研究
小柳卓治 (こやなぎたくじ)	ガラス繊維強化複合材料の耐熱水性に関する迅速性能評価法の研究
更田誠 (さらたまこと)	天然繊維含有複合材料に関する基礎的研究
田中由佳理 (たなかゆかり)	布の風合いにおける「しっとり感」の評価に関する研究
西本博之 (にしもとひろゆき)	組物複合材料の繊維配向予測に関する研究
SONG Rouyuan (そうじゃくえん)	Research and Development of Paper and Paper Reinforced Composite from Silk Waste(シルク廃材を用いた紙および紙強化複合材料の研究開発)
小笠原稔 (おがさはらみのる)	高周波加熱を用いたリサイクル PET の高機能化
倉橋直也 (くらはしなおや)	繊維廃棄物の多孔質吸音材への応用に関する研究
瀬川修 (せがわおさむ)	射出プレス成形を用いたコア材のサンドイッチ成形に関する研究
納土賢悟 (のうどけんご)	射出圧縮成形における成形品内部構造と物性に関する研究
国宗範彰 (くにむねのりあき)	環境対応型プラスチック射出成形品の成形と物性に関する研究
橋本朋子 (はしもとともこ)	Studies on intracellular transcription of transgene delivered by polymeric gene carriers(高分子キャリアーによる遺伝子導入と細胞内転写効率に関する研究)
川口佳子 (かわぐちよしこ)	C. R マッキントッシュの建築活動における産業的基盤に関する研究 - 室内装飾の施工システムの解明から -

○論文提出によるもの (論文博士)

(平成22年3月25日授与)

申請者	論文題目
山元哲 (やまもとあきら)	伴侶動物用顆粒球コロニー刺激因子の生産と薬理効果



# 卒業生・修了生の就職進学先

学生サービス課就職支援室長 徳岡正行

平成21年度 進路先内定状況一覧(22.2.5)  
〔人数欄の数字は、採用人数を示す。〕

## 工芸学部

### 機械システム工学科(昼間)

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
新日本工機 (夜間主)	1	ヤマザキマザック	1	京都工芸繊維大学	4		
東洋クロス(既職)	1	日本飛行機	1	本田技研工業	1	京都大学	1

### 電子情報工学科(昼間)

SKY	1	アグレックス	1	エルピータメモリ	1	三菱電機	1
京進	1	京都工芸繊維大学	3	LEC東京リーガルマインド	1	京都大学	1
奈良先端科学技術大学院大学 (夜間主)	2						

### 大阪大学

大阪市	1		1				
-----	---	--	---	--	--	--	--

### 物質工学科(昼間)

パネフリ工業 (夜間主)	1	阪南コーポレーション	1	ガスキン	1		
光洋サーモシステム	1	京都工芸繊維大学	1				

### 造形工学科(昼間)

清水建設	1	トヨタすまいるライフ	1	類設計室	1	京都工芸繊維大学	3
東京工業大学 (夜間主)	1						
小松義博建築都市設計事務所	1	イトーキ	1	三井清治建築研究所	1	京都工芸繊維大学	2

## 繊維学部

### 応用生物学科(昼間)

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
フルスピード	1						

### 高分子学科(昼間)

京都工芸繊維大学	1	京都工芸繊維大学	1				
----------	---	----------	---	--	--	--	--

### デザイン経営工学科(昼間)

京都工芸繊維大学	1	レノボ・ジャパン	1				
----------	---	----------	---	--	--	--	--

## 工芸科学部

### 応用生物学課程

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
Top's 双ヶ丘学園	1	赤塚植物園	1	参天製薬	1	マルホ	1
ユニクロ	1	京都大学	1	大阪大学	1	大阪薬科大学	1
京都工芸繊維大学	35	京都大学	7				

### 生体分子工学課程

初田製作所	1	海上自衛隊	1	興和	1	京都府教育委員会	1
大阪大学	1	京都教育大学	1	京都工芸繊維大学	40	名古屋大学	1

### 高分子機能工学課程

大阪市消防局	1	高島屋	1	東レ	1	凸版印刷	1
ノートルダム女学院中学校・高等学校	1	大阪大学	1	京都工芸繊維大学	41	京都大学	3
奈良先端科学技術大学院大学	2						

### 物質工学課程

NBC メッシュテック	1	栄光	1	大原バラチウム化学	1	関西ペイント	1
共立マテリアル	1	近鉄百貨店	1	財団法人日本化学繊維検査協会	1	サイバーエージェント	1
サンデリカ	1	四国化成工業	1	大日本住友製薬	1	タカラベルモント	1
日東メディック	1	ニトリ	1	ニューレジストン	1	兵庫県教育委員会	1
リクルート	1	京都工芸繊維大学	47	京都大学	4		

### 電子システム工学課程

エレコム	1	協和エクシオ	1	デンソー	1	東京海上日動火災保険	1
パナソニック電工	1	分光計器	1	大阪大学	1	京都工芸繊維大学	38
奈良先端科学技術大学院大学	4	北陸先端科学技術大学院大学	1				

### 情報工学課程

ケーケーシー情報システム	1	ノーザ	1	大阪大学	1	京都工芸繊維大学	37
京都大学	5	東京工業大学	1	名古屋大学	1	奈良先端科学技術大学院大学	1
北陸先端科学技術大学院大学	1						

### 機械システム工学課程

TOTO	1	アイ・エイチ・アイマリンウナイテッド	1	キヤノンマシナリー	1	京都府庁	1
小松ウォール工業	1	ジーエス・ユアサコーポレーション	1	大日本印刷	1	タイハツ工業	1
タマディック	1	日立工機	1	堀場エステック	1	ミネベア	1
ヤンマー	1	ローム	1	九州工業大学	1	京都工芸繊維大学	50
名古屋大学	1						

### デザイン経営工学課程

NTT データセキュリティシステムズ	1	アリコジャパン	1	オリンパスイメージング	1	九電産業	1
シャープ	1	タカラトミー	1	電通	1	西松屋チェーン	1
日本写真印刷	1	パナソニックコンシューマーマーケティング	1	ハラダ	1	プレミアムエージェンシー	1
ベストプライダル	1	堀場製作所	1	三井住友カード	1	京都工芸繊維大学	13
京都大学	1						

### 造形工学課程

藤木工務店	1	㈱サンゲツ	1	IVS テレビ制作	1	大鹿印刷所	1
大橋珍味堂	1	大林組	2	カミオジャパン	1	河淳	1
クレオ	1	コクヨマーケティング	1	京都大学	1	コトブキ	1
サクライカード	1	鳥津製作所	1	精研	1	辰巳開発	1
都市再生機構	1	奈良県	1	ニトリ	1	ネオスペース	1
パナホーム	2	美樹工業	1	桃李舎	1	ヨドバシカメラ	1
アレスト	1	京都工芸繊維大学	48	東京大学	1	早稲田大学	1
北海道大学	1						

### 先端科学技術課程

(既職)滋賀県	1	石黒メディカルシステム	1	大阪府立中学校	1	共栄国際特許事務所(既職)	1
モーレ	1	自営	1	ダイハツ工業	1	タハラ	1
トヨタ自動車	1	名古屋電機工業	1	ニトリ	1	日吉(既職)	1
ピンテーシロードクラブ	2	フォレスト IP(既就職)	1	富士電機ホールディングス	1	ミネベア	1
八木兵	1	京都市教育委員会	1	京都工芸繊維大学	14	京都大学	1
東北大学	2	長岡技術科学大学	1				

## 大学院工芸科学研究科修士課程

### 応用生物学専攻

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
動食品分析開発センター SUNATEC	1	JCL バイオアッセイ	1	アークレイ	1	伊藤ハム	1
カネボウ化粧品	1	環境衛生薬品	1	関西ペイント	1	黄桜	1
京都市	1	京都市教育委員会	1	京都府教育委員会(既職)	1	国際衛生	1
コシイブレザービング	1	コンピューター技研	1	三洋化成工業	1	鳥津総合分析試験センター	1
大山ハム	1	ナリス化粧品	1	三チレイフーズ	1	日本システム技術	1
日本新薬	1	日本生活協同組合連合会	1	日本粉末薬品	1	日本ペーリンガーインゲルハイム	1
ピカソ美化学研究所	1	ひかり味噌	1	日立インスファーマ	1	広島県	1
古河 AS	1	マリンフード	1	ミツカングループ本社	1	ライオン	1
ワタミフードサービス	1	京都工芸繊維大学	2				

生体分子工学専攻

ISR	1	KISCO	1	大阪府教育委員会	1	大塚製菓	1
宥敷繊維加工	1	コスモビューティー	1	堺市	1	サカタインクス	1
ショーワグローブ	1	大気社	1	テルモ	1	トステム	1
ナード研究所(既職)	1	西宮市	1	ニッセンホールディングス	1	日東電工	1
日本インシュレーション	1	日本写真印刷	2	日本水産	1	日本ペイントマリン	1
日本山村硝子	1	日本酪農協同	1	パナソニック電工	1	マツイカガク	1
三菱レイヨン	1	ユニチカ	1	京都工芸繊維大学	1		

高分子機能工学専攻

オーナンバ	1	京セラミタ	1	京都科学	1	呉竹	1
サクラクレオアス	1	サンコール	1	三洋電機	1	島津製作所	1
住友ゴム工業	1	積水化学工業	2	ゼネラルテックプロジュー	1	象印マホービン	1
大気社	1	ダイセル化学工業	1	大八化学工業	1	ダイハツ工業	1
田中貴金属工業	1	トーイン	1	豊田合成	1	中西金属工業	1
ニッタ	1	日本写真印刷	1	日本ゼオン	1	日本電気硝子	1
ネオス	1	ノーリツ鋼機	1	パナソニックセミコンダクターディスクリートデバイス	2	半導体エネルギー研究所	1
リコー	1	東北大学	1				

物質工学専攻

ADEKA	1	Avan Strate	2	DOWA ホールディングス	1	TDK-EPC	1
WDB エウレカ	1	朝日ウッドテック	1	石原産業	2	イハラサイエンス	1
花王	1	京セラケミカル	1	コーセー	1	サカタインクス	1
三晃空調	1	住友精化	1	積水化学工業	1	積水化成工業	1
田園化学工業	1	東洋ビューティー	1	東リ	1	日本原子力研究開発機構	1
ニチリン	1	ニッタ	1	日本印刷	1	日本写真印刷	2
日本触媒	1	パナソニックセミコンダクターディスクリートデバイス	1	東指工業	1	日立化成工業	1
日立製作所	1	フジコー	1	富士フイルム RI フォーマ	1	三井・デュボンフロロケミカル	1
三菱重工プラント建設	1	三菱樹脂	1	明成化学工業	1	ヤマトエスロン	1
ライオン	1	ローム	1	京都工芸繊維大学	3	東京大学	1

電子システム工学専攻

NTT ファシリティーズ	1	エネゲート	1	カワサキプラントシステムズ	1	関西電力	2
京セラミタ	1	シー・エス・ユアサコーポレーション	1	ジェイテック	1	島津製作所	1
シャープ	1	家事手伝い	1	ススキ	1	住友電気工業	1
セイコーエプソン	1	ソニー	1	タカラスタンダード	3	デンソー	1
東海旅客鉄道(IR 東海)	1	東京電力	1	東芝	1	東レエンジニアリング	1
トヨタ自動車	1	日進製作所	1	日本ガイシ	1	日本写真印刷	1
日本造船	1	パナソニック	1	富士通	2	富士通テン	1
富士電気ホールディングス	1	堀場テクノサービス	1	三菱電機	1	三菱電機マイコン機器ソフトウェア	5
ローム	1	総合研究大学院大学	1				

情報工学専攻

TIS	1	アイコム	1	アドクリエーション	1	エス・アール・ディー	1
エス・ケー・アイ	1	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	1	カコムス	1	京都共栄学園	1
京セラミタ	1	京都大学	1	神戸大学	1	ジェーエムエーシステムズ	1
島津製作所	1	造幣局	1	ダイハツ	1	デンソー	2
東芝ソリューション	1	トヨタ自動車	1	トヨタテクノニカルディベロップメント	1	日本無線	1
パナソニック	1	日立アドバンスデジタル	1	日立情報通信エンジニアリング	1	日立製作所	1
ビッツ	1	ヒューマンシステム	1	富士通	1	富士通テン	1
船井電機	1	古野電気	1	三菱電機	2	三菱電機情報ネットワーク	1
京都工芸繊維大学	1						

機械システム工学専攻

CSK ホールディングス	1	IHJ	1	NTT ファシリティーズ	1	いすゞ自動車	1
オプテックス	1	川崎重工	1	川崎造船	1	関西保温工業	1
関東自動車工業	1	京都市	1	共和電業	1	クラシエフーズ	1
神戸製鋼所	1	コマツ	1	三洋電機	1	シーエス・ユアサコーポレーション	1
シャープ	1	セイコーエプソン	1	積水化学工業	1	ダイキン工業	2
ダイハツ工業	1	竹中工務店	1	タケモトデンキ	1	東ソー	1
トヨタ技術工業	1	トプコン	1	トヨタ自動車	1	西島製作所	1
西日本旅客鉄道	1	日販製作所	1	日新電機	1	日東電工	1
日本ガイシ	1	日本特殊陶業	1	日本輸送機	1	パナソニック	1
パナソニック電工	2	日立建設	1	富士通工業	1	富士通フロンテック	1
アラザン工業	1	フリヂストン	1	堀場製作所	1	マツダ	1
三橋製作所	1	三菱化学	1	三菱重工	3	三菱電機	1
宮川化成工業	1	村田製作所	1	ヤマサキマザック	1	ヤマハ発動機	1
和多印刷	1						

デザイン経営工学

NRI ネットワークコミュニケーション	1	イリア	1	エイジェックスコミュニケーションズ	1	エイジェックスコミュニケーションズ	1
宣伝会議	1	山山印刷	1	電通ファシリテイマネジメント	1	トヨタ紡織	1
富士通	1	京都工芸繊維大学	1	本田技術研究所	1	マツダ	1
ヤマハリビングテック	1	リコープリンティングシステムズ	1				

造形工学専攻

NTT ファシリティーズ	1	UR 都市機構(独)都市再生機構	1	アーパネックス	2	エスパス建築事務所	1
興村組	1	京都市	1	翔設計	1	鋭高組	1
日建設計コンストラクション・マネジメント	1	パナホーム	1	東日本ハウス	1	京都工芸繊維大学	1

デザイン科学専攻

I23 トロフィー	1	INAX	1	TCD	1	エステー	1
エレコム	1	遠藤照明	1	新学社	1	ダイワラック工業	1
凸版印刷	1	凸版印刷	1	任天堂	1	バルコスペースシステムズ	1
フジヤ	1	ブレーン	1	京都工芸繊維大学	1		

建築設計学専攻

DOAT(既職)	1	ILYA	1	板倉建築研究所	1	イトーキ	1
大林組	2	木下昌大建築設計事務所	1	サンケイビル	1	ジューク	1
清水建設	1	蘇州建築設計院	1	竹中工務店	2	竹中工務店インテリア設計部	1
東急建設	1	東畑建築事務所	1	徳岡昌克建設設計事務所	1	日建設計	1
安井建築設計事務所	1	ライティングプランナーズアソシエーツ	1	理建設計	1		

先端ファイブロ科学専攻

SANKYO	1	荻森工業(既職)	2	井植インターナショナル(既職)	1	出光興産	1
エフエスティ	1	オーテイズ(既職)	1	オムロン飯田	1	カトーテック	1
カワサキプレジジョンマシナリ	1	黒崎播磨	1	三和ダイヤモンド工業所	1	ショーワ	1
スチールフロンテック	1	住友ゴム工業	1	積水ハウス	1	創建(既職)	1
デリフ	1	テルモ	1	東レ	1	国民生活センター	1
トヨタ自動車	1	ナカライテック	1	仁科旗金具製作所(既職)	1	日本総合研究所	1
ノーザントラスト・グローバル・インベストメント(既職)	1	羽衣国際大学(既職)	1	パナソニック電工	1	フジコー	1
古河 AS	1	堀場製作所	1	三菱樹脂	1	三菱電機	1
村田製作所	1	ヤマシン・フィルタ	1	ヤマハモーターエンジニアリング	1	ユニバーシティ PUTRA マレーシア	1
リコーユニテック	1	京都工芸繊維大学	5				

大学院工学科学研究科博士後期課程

生命物質科学専攻		企業名等		企業名等		企業名等	
企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
The University of Science, Hochiminh City, Vietnam	1	大阪ハイテクノロジー専門学校(既職)	1	カネカ	1	京都工芸繊維大学(ボストク)	1
滋賀県(既職)	1	新日本理化学(既卒)	1	住友精化(既職)	1	タイ Rajamangala University of Technology Isan 講師	1
大和製織	1	ホーユー(既職)	1	ホソカワミクロン	1	マラヤ大学講師	1
設計工学専攻		企業名等		企業名等		企業名等	
企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
(既職)神戸製鋼	1	(既職)パナソニック	1	アイセイハード(既職)	1	アムテック(既職)	1
京都市交通局	1	京都府庁	1	産業技術短期大学(既職)	1	滋賀県警察本部(既職)	1
特許事務所	1	富士通研究所(既職)	1				
造形科学専攻		企業名等		企業名等		企業名等	
企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
松村クリエイティブオフィス(既職)	1	(既職)甲南女子大学	1				
先端ファイブロ科学専攻		企業名等		企業名等		企業名等	
企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
(既職)TPE テクノロジー	1	大阪成蹊大学(既職)	1	京都工芸繊維大学(ボストク)	1	京都高度技術研究所(既職)	1
名古屋女子大学短期大学部(既職)	1	小柳技術士事務所(既職)	1	武田薬品工業(既職)	1	東洋紡織(既職)	1
豊田工業高等専門学校(既職)	1	ベトロラービク社(既職)	1	三菱ガス化学(既職)	1	武庫川学院	1
立命館大学(既職)	1						
情報・生産科学専攻		企業名等		企業名等		企業名等	
企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
千本空洞(既職)	1						
機能科学専攻		企業名等		企業名等		企業名等	
企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
畿央大学1(既職)	1	梓設計(既職)	1				

# 年会費納入について

## 納入を確認する方法

- (1) 年会費納入者名を、次のとおり掲載しております。
- (2) 会誌や連絡物をお送りした郵便物の宛名ラベルに、何年までの年会費が納入されているか記載されております。宛名ラベルにその記載がなされていない方は、会費が未納状態です。この場合は、郵便振替用紙が同封されておりますので、これを用いて年会費の納入をお願いします。
- (3) 言い換えますと、年会費の納入の終わっている方には、会費納入の振込用紙は、同封されておりません。従って、年会費納入用の振込用紙が同封されている方は、年会費が未納状態であるということです。年会費の納入をお願いいたします。

## KIT 同窓会年会費・前納会費納入者報告（順不同・敬称略）

- (1) 平成 22 年 3 月 31 日までに平成 21 年度年会費・前納会費を納入された方は、下記のとおりでありませ記載漏れがありましたら京都工芸繊維大学同窓会事務局にご一報ください。調査して連絡申し上げます。
- (2) 平成 20 年度以後の前納会費納入分の取扱い  
平成 18 年度京都工大会総会におきまして、旧京都工大会会員の皆様方は、新同窓会（京都工芸繊維大学同窓会略称以下「KIT 同窓会」という。）に移籍することが議決されました。又 KIT 同窓会設立総会におきまして、旧京都工大会の全会員は、KIT 同窓会の正会員として承認されました。  
平成 19 年度以後の前納会費を納入されている方の分の取扱いにつきましては、本来、納入者に返還すべきものでありますが、返還に要するコスト（事務経費・送料等）を考慮すると旧京都工大会は、平成 21 年 7 月 4 日をもって解散いたしましたので、返還する財政的力量がございません。従って、当前納会費分は、KIT 同窓会会費として引き継ぎ、従来、旧京都工大会の前納会費制を踏襲する取扱いをさせていただきます。

## 会費の使途・役割について

- (1) 「KIT 同窓会」は、会員相互の交流と親睦を図り、もって母校の発展、学術文化及び蚕業の振興に寄与することを目的としております。
- (2) 会員の皆様方からの年会費のほか、特別ご贈金による支援・ご協力をいただき、「KIT 同窓会」の充実・発展・運営・活動を実行して参ります。このことは本会のみならず、母校への強い支援になります。今後とも会員の皆様方のご支援・ご協力をお願いします。
- (3) KIT 同窓会は財政逼迫・窮状により、年会費 3 年連続未納の会員の方には、「KIT 同窓会誌」の送付を停止することを検討中です。会費納入によるしくご協力のほどお願いいたします。

## 平成 21 年度(2009)

### 工 芸 学 部

色 染 科

色染工芸学科

陶磁器科

窯業科

窯業工芸学科

無機材料工学科

人造繊維科

化学工業科

工業化学科

物質工学科

図案科

意匠工芸学科

建築科

建築工芸学科

建築学科

住環境学科

造形工学科

機織科

紡織科

機織工芸学科

精密機械科・機械科

生産機械工学科

機械工学科

機械システム工学科

電気科

電気工学科

電子工学科

電子情報工学科

繊維学部

蚕業実科

養蚕科

養蚕学科

紡織科

繊維化学科

高分子学科

応用生物学科

大学院(工芸学・工芸科学)研究科(工芸学部卒業生以外の修了生)

先端ファイブプロ科学専攻

工業化学専攻

物質工学専攻

建築工芸学専攻

住環境学専攻

造形工学専攻

機能科学専攻

材料科学専攻

デザイン科学専攻

工業短期大学部

化学工業科

工業化学科

機械電気科

機械工学科

電氣工学科

写真工学科

平成22年度(2010)

工芸学部

色染科

色染工芸学科

窯業科

窯業工芸学科

無機材料工学科

人造纖維科

化学工業科

工業化学科

物質工学科

図案科

意匠工芸学科

建築学科

建築工芸学科

建築科

住環境学科

造形工学科

機織科

紡織科

機織工芸学科

精密機械科・機械科

生産機械工学科

機械工学科

機械システム工学科

電気科

電気工学科

電子工学科

電子情報工学科

織維学部

養蚕学科

応用生物学科

織維化学科

高分子学科

大学院(工芸学・工芸科学)研究科(工芸学部卒業生以外の修了生)

先端ファイブロ科学専攻

工業化学専攻

物質工学専攻

建築工芸学専攻

住環境学専攻

造形工学専攻

機能科学専攻

材料科学専攻

デザイン科学専攻

工業短期大学部

化学工業科

工業化学科

機械電気科

機械工学科

電気工学科

写真工学科

平成23年度(2011)

工芸学部

色染科

色染工芸学科

窯業科

窯業工芸学科

無機材料工学科

化学工業科

工業化学科

物質工学科

図案科

意匠工芸学科

建築科

建築工芸学科

建築学科

住環境学科

造形工学科

機織科

紡織科

機織工芸学科

精密機械科・機械科

生産機械工学科

機械工学科

機械システム工学科

電気工学科

電子工学科

電子情報工学科

繊維学部

養蚕学科

応用生物学科

大学院(工芸学・工芸科学)研究科(工芸学部卒業者以外の修了生)

先端ファイブロ科学専攻



工業化学専攻

物質工学専攻

建築工芸学専攻

住環境学専攻

造形工学専攻

機能科学専攻

材料科学専攻

工業短期大学部

化学工業科

工業化学科

機械電気科

機械工学科

電気工学科

写真工学科

平成24年度(2012)

工芸学部

色染科

色染工芸学科

窯業科

窯業工芸学科

無機材料工学科

化学工業科

工業化学科

物質工学科

図案科

意匠工芸学科

建築科

建築工芸学科

建築学科

住環境学科

造形工学科

紡績科

機織工芸学科

精密機械科・機械科

生産機械工学科

機械工学科

機械システム工学科

電気工学科

電子工学科

電子情報工学科

繊維学部

養蚕学科

応用生物学科

大学院(工芸学・工芸科学)研究科(工芸学部卒業者以外の修了生)

先端ファイブロ科学専攻

工業化学専攻

建築工芸学専攻

住環境学専攻

造形工学専攻

工業短期大学部

化学工業科

機械電気科

機械工学科

電気工学科

平成 25 年度(2013)

工 芸 学 部

色 染 科

色染工芸学科

窯 業 科

窯業工芸学科

無機材料工学科

物質工学科

工業化学科

意匠工芸学科

建 築 科

建築工芸学科

建 築 学 科

住 環 境 学 科

造 形 工 学 科

機織工芸学科

精密機械科・機械科

生産機械工学科

機 械 工 学 科

機械システム工学科

電 気 工 学 科

電 子 工 学 科

電子情報工学科

大学院(工芸学・工芸科学)研究科(工芸学部卒業者以外の修了生)

先端ファイブロ科学専攻

工業化学専攻

建築工芸学専攻

住環境学専攻

工業短期大学部

機 械 電 気 科

機 械 工 学 科

平成 26 年度(2014)

工 芸 学 部

色 染 科

色染工芸学科

窯 染 科

窯業工芸学科

意匠工芸学科

建築工芸学科

住 環 境 学 科

精密機械科・機械科

生産機械工学科

電 気 工 学 科

平成 27 年度(2015)

工 芸 学 部

色 染 科

色染工芸学科

窯 染 科

窯業工芸学科

意匠工芸学科

建築工芸学科

住 環 境 学 科

精密機械科・機械科

生産機械工学科

平成 28 年度(2016)

工 芸 学 部

色 染 科

色染工芸学科

窯 染 科

窯業工芸学科

意匠工芸学科

建築工芸学科

精密機械科・機械科

平成 29 年度(2017)

工 芸 学 部

色 染 科	色染工芸学科	窯 染 科	窯業工芸学科	意匠工芸学科
建築工芸学科		精密機械科・機械科		

平成 30 年度(2018)

工 芸 学 部

色 染 科	色染工芸学科	窯 染 科	窯業工芸学科	意匠工芸学科
建築工芸学科		精密機械科・機械科		

平成 31 年度(2019)

工 芸 学 部

色 染 科	窯業工芸学科	意匠工芸学科	
建築工芸学科		精密機械科・機械科	

平成 32 年度(2020)

工 芸 学 部

色 染 科	窯業工芸学科	意匠工芸学科	
建築工芸学科		精密機械科・機械科	

平成 33 年度(2021)

工 芸 学 部

色 染 科	窯業工芸学科	意匠工芸学科	精密機械科・機械科
-------	--------	--------	-----------

平成 34 年度(2022)

工 芸 学 部

色 染 科	窯業工芸学科	意匠工芸学科	精密機械科・機械科
-------	--------	--------	-----------

平成 35 年度(2023)

工 芸 学 部

色 染 科	窯業工芸学科	意匠工芸学科	精密機械科・機械科
-------	--------	--------	-----------

平成 36 年度(2024)

工 芸 学 部

色 染 科	窯業工芸学科	意匠工芸学科	
-------	--------	--------	--

平成 37 年度(2025)

工 芸 学 部

色 染 科	窯業工芸学科	意匠工芸学科	
-------	--------	--------	--

平成 38 年度(2026)

工 芸 学 部

窯業工芸学科	意匠工芸学科	
--------	--------	--

平成 39 年度(2027)~51 年度(2039)

工 芸 学 部

窯業工芸学科
--------

## 〈京都工大会解散について〉

京都工大会総務担当 山本 建太郎

(昭和48年 意匠工芸学科卒)



京都工大会は平成21年7月4日をもって解散いたしました。ここにご報告させていただきます。

京都工大会のはじまりは、明治35年京都高等工芸学校が創立され学校の形態がほぼ整った時点で設立された校友会「済美会」がその前身です。その後大正15年に「京都高工会」の名称で同窓会(会員は「済美会」)が発足しました。しかし、昭和15年軍事色が濃厚になったため「済美会」は発展的解消となり、昭和25年に「京都高工会」は「松ヶ崎工芸会」に改称し、その後昭和40年には「京都工大会」に改称され今日に至りました。



しかし、平成18年本学の工芸学部と繊維学部が工芸科学部として1学部に改組統合されたことに伴って、京都工大会は事業整理を行うこととなりました。そのため特別委員会が結成され、平成21年4月を目処に同窓会名簿の移管、特別会計の整理、会計監査、解散時期など残務整理を進めて参りました。

同窓会名簿は前納会費とともにすでに京都工芸繊維大学同窓会へ移管いたしました。特別会計(会員篤志による資産)は、いかに諸先輩方のご厚意に報えるかを審議した結果、大学創立60周年記念事業の「新同窓会パビリオン」建設費用として、2000万円を昨年5月に大学へ寄付させていただきました。また、事業整理後の残金は京都工芸繊維大学同窓会へ寄付することとし、公認会計士による最終会計監査を行いました。最終会計監査報告は本誌に掲載させていただいております。

最終理事会および総会は、平成21年7月4日ウェスティン都ホテルに於いて開催いたしました。平成19年度・平成20年度事業報告および平成19年度・平成20年度決算報告が承認され、続いて京都工大会解散についての説明の後、





古川会長からの解散宣言でここに100有余年の長い歴史を持つ京都工大会は発展的解消をすることとなりました。総会の後、京都工大会解散記念パーティーが開催され京都工大会理事長代行本城博一氏の開会宣言、京都工大会理事長古川敏一氏からの開会挨拶、続いてご来賓の皆様方(京都工芸繊維大学長江島義道先生、京都工芸繊維大学元学長巽友正先生、京都工大会顧問京都工芸繊維大学元工芸学部長奥田進先生、京都工芸繊維大学元工芸学部長西村武先生、京都工芸繊維大学元工芸学部長里深信行先生、大学



院工芸科学研究科長柴山潔先生)を代表して江島義道先生からご挨拶をいただき、奥田進先生の乾杯のご発声で懇親会となりました。長年にわたる京都工大会活動を惜しみつつ、これからの新たな同窓会活動への期待を胸に、懇親会は終止和やかに進行し最後に全員で学歌を斉唱。そして改めて古川敏一理事長から京都工大会発展的解消宣言がなされ、閉会いたしました。

長い歴史と伝統を持つ京都工大会が姿を消すことは会員の皆様にとって誠に忍びないところではありますが、組織が生まれ変わって京都工



芸繊維大学同窓会に移行したことを喜び今後のさらなる発展を一同祈念いたしたいと存じます。

最後に、長年にわたって京都工大会運営に携わられた古川理事長をはじめ、理事の皆様、会員の皆様、事務局の上田正勝氏、寺田一美氏に心より御礼申し上げます。また、解散準備を進めていただいた特別委員会の皆様特に総務担当としてご尽力いただきました遠藤久満先生、中山純一先生に深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



# 京都工大会解散にいたるまでの会計処理報告

京都工大会 会計担当副理事長 若杉 耕一郎

(電気工学科 昭和50年卒)

京都工大会総会ならびに解散記念パーティが平成21年7月4日に開催され、京都工大会の歴史に幕がおろされました。京都工大会解散に至までの会計処理に関して、会計担当として時系列的にご報告いたします。

平成19年6月23日に開催された平成19年度定期総会において18年度収支決算が承認された後、19年度以降の予算措置が議論されました。大学改組に伴い旧工芸学部への入学生はなくなり、19年度以降の主たる京都工大会事業は工芸学部卒業生への記念品贈呈など残務処理となります。残務処理を円滑に遂行するため特別委員会が設置され、全ての決定はこの特別委員会にゆだねられました。19年度定期総会時点で次回定期総会開催に関しては全く不透明な情勢でしたので、この定期総会においては通例の平成19年度収支予算書(案)と最終決算時期を特別委員会解散時までとした平成20年度収支予算書(案)を会計担当より提示させていただき、原案通り承認されました。新入会員からの会費収入がなくなっているため、19年度支出に関しては一般会計の預金等を取り崩してこれに当てることとなりました。20年度から解散時までも同様の措置とするが、赤字が発生した場合には特別委員会の承認を得て特別会計から補填することが承認されたことも申し添えます。

19年度収支決算の主たる項目は収入に関しては預金取り崩し、支出に関しては「京都工大会だより」のKIT同窓会誌掲載費の支払いと京都工大会前納会費をKIT同窓会へ移算したのが主たる項目でした。次に20年度収支決算ですが、先に20年度の最終決算期は特別委員会解散時までとされましたが、幸い20年度末日時点で一応の決算を取りまとめることができました。20年度収支決算の主たる項目ですが、収入は前年度繰越金のみ、支出はKIT同窓会誌への掲載費と工大会誌電子化の経費でした。後者は、紙媒体で発行されてきた工大会誌が今後逸散したりすることがないように、全てPDFファイル化し、保存のためCD作成を行ったも

のです。これにより発行された工大会誌は経年変化などによる劣化もなく安全に保存することが可能となりました。

収支決算は従前から、一般会計と特別会計に区分され運用処理されてきました。この特別会計は2,065名の会員各位の寄付金とその利息からなり、その取り扱いは非常に重要なものであり、特別委員会でも慎重な議論がなされました。残余資産の処理に関しては、解散にかかる諸事業実施経費を除き、円を大学創立60周年記念事業の「新同窓会パビリオン」建設資金に寄贈する、その上で残資産が生じた場合はKIT同窓会に活動資金として寄贈するとの結論がなされました。会計関連に関してはこれらを原案として、平成21年5月16日開催の京都工大会臨時理事会にお諮りし、承認いただきました。平成21年7月4日開催の京都工大会総会において、平成19年度・20年度決算報告を行いました。これらに関して会計監査報告をいただいた結果、原案通り承認をいただきました。

京都工大会総会ならびに解散記念パーティの終了後、直ちに予算執行額の確定を進め、平成21年9月1日をもって会計にかかわる全ての処理を終えることができました。平成21年4月1日から9月1日の期間の収支決算の通り、最終的な一般会計繰越金は円であり、これをKIT同窓会に活動資金として寄贈しました。工大会が解散したのちの最終的な監査をどのように実施するかは重要なことであります。この点に関しても上記の臨時理事会で議論いただき、正式に公認会計士の監査を経てその結果を会員の皆さまに公開すると決しておりました。通帳・領収書等の資料一式を準備の上、中野公認会計士事務所を訪ね監査を頂きました。その結果、9月17日付で監査報告書の通り、適正との監査結果をいただきました。

以上をもちまして京都工大会の会計処理を完了したことを会員の皆さまにご報告申し上げます。歴代の会計担当副理事長と監事の方々に心からの御礼を申し上げ、本報告を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

## 収支決算書

京都工大会本部

自 平成21年 4月 1日  
至 平成21年 9月 1日 単位：円

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額

### 中野公認会計士事務所 監査報告書

## 監 査 報 告 書

平成 21 年 9 月 17 日

京都工大会本部  
理事長 古川 敏 一 殿

京都市上京区今出川通小川西入飛鳥井町 268 番地  
中野公認会計士事務所  
公認会計士 中 野 敏 一 殿

私は、京都工大会本部の平成 21 年 4 月 1 日から平成 21 年 9 月 1 日までの収支計算書及び最終一般会計繰越金(現金残高)につき、与えられた資料と報告に基づき監査致しました。

1. 監査の方法の概要  
会計に関する帳簿及び伝票、また、これらに関する証憑等を閲覧し、経過報告の聴取その他必要な方法を用いて計算書類について検討致しました。

2. 監査結果の意見  
収支計算書(最終一般会計繰越金を含む)は、当本部の財産および収支の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以 上

### 平成 20 年度 事業報告

1. 会議
  - 1) 理事会総会(平成20年 6 月28日(土))
  - 2) 衣笠同窓会第 2 回理事会(平成21年 3 月14日(土))
  - 3) KIT 同窓会総会(平成20年 6 月28日(土))
  - 4) KIT 同窓会衣笠同窓会関係 43 人会(平成20年 4 月26日(土))
  - 5) KIT同窓会理事会(平成20年 6 月 7 日(土))
2. 衣笠同窓会常務理事会(3 回)
3. 事務局及び正副会長会(6 回)
2. 衣笠同窓会誌第 54 号発行  
平成 21 年 3 月 20 日印刷  
4 月 1 日発行(7200 部)
3. 会員名簿の整理
4. 支部会総会への出席
5. 大学への協力
6. 衣笠同窓会・京都工大会・KIT 同窓会合同懇親会の開催
7. 大学創立 60 周年記念事業への支援

### 平成 21 年度 事業計画

1. 会議
  - (1) 理事会総会
  - (2) 常務理事会
2. 会誌発行  
KIT 同窓会が発行する会誌に衣笠同窓会関係の記事を掲載
3. 会員名簿の整理
4. 支部活動との連携
5. KIT 同窓会関係

### 平成 22 年度理事会・総会案内

平成 22 年度衣笠同窓会理事会・総会を下記の通り開催しますので、皆様にはご多忙と存じますが、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

日 時 平成22年 7 月 3 日(土) 2 時から

場 所 ウェスティン都ホテル京都

- 議 題
1. 平成 21 年度事業報告及び決算報告
  2. 平成 21 年度会計監査報告
  3. 平成 22 年度事業計画及び予算案
  4. KIT 同窓会の役員選出案
  5. KIT 同窓会の規約改正案
  6. 創立60周年記念事業について
  7. その他

※この総会のみにご出席される方は、大変お手数ですが、次の所までご連絡くださいませ。

電話 075-724-7776(森)



## 京都工芸繊維大学能楽部 OB 会・交扇会的事 (心のふるさとへ帰ろう!!)

交扇会代表幹事 井上良一

(繊維化学科・昭和33年卒)

それは平成2年12月9日の事であった。製糸紡績科32年卒業の松澤行男氏の「人生の第3の時期をより実り多く心豊かに過ごす方策として、青春を燃焼させた能楽部の時代を思い出そうじゃないか」との呼びかけに呼応して、洛西の竹林公園に集った有志は繊維学部謡曲部の創始者でもある小原健吾(化30)ほか、内藤二郎(化33)、井上良一(化33)、猪飼康夫(機37)、金田正一(機38)、竹本俊平(建42)、龍野文男(機50)(敬称略、カッコ内は科、と卒業年)であった。

同会合にて、京都工芸繊維大学の卒業生、職員、及び家族で能楽を愛好するものを会員とし、年2回の発表会を持つことを内規として定め、会の名前は小原氏の発案で工織の読みを取り、言わば商売道具の扇の交わりとしゃれて、交扇会を名乗った。

以降、回を重ねて昨秋は第34回をピアザ淡海(大津市におの浜)で催した。

その間、節目の第10回はこけら落とし間もない大津市の伝統芸能会館で、第20回は彦根城の井伊家の能舞台で開催した。この会には遠路埼玉から飯田豊(蚕39)山本功(製39)が駆けつけてくれた。これがきっかけとなって埼玉を拠点に東峰交扇会を称して活動が続いているのは心強い。

かれこれ20年にわたる活動の中で特に心に残るのは母校の開学100周年記念行事(H12.5.27 於 都ホテル)に祝言の舞囃子を演じる事が出来た事だ。かようにそれなりの活動を



第10回 大津市伝統芸能館にて 1995.11.26



第33回 阪口楼にて 2009.6.7

継続してきたと自負するものの残念に思う事が二つある。一つは現在母校に能楽関連のサークルが無い事だ。能楽部の復活を願っての働きかけをしなかった訳ではない。都合3回、松ヶ崎祭に参加しPRを試みたが、残念ながら結実していない。もう一つは当会の現在の活動をおつてのメンバーにお知らせする手段に乏しい事だ。能楽部の在籍者名簿には140名の記載があるにもかかわらず当会の活動を通して交流が復活したのは2割に満たない。

この稿が機縁となって心のふるさとに帰ってくれる同志から連絡頂ける事を願っている。

〈連絡先〉

交扇会：

〒520-2144 大津市大萱2丁目34番地1-704

TEL 077-543-1850 井上 良一

東峰交扇会：

〒367-0021 埼玉県本庄市東台2-2-2

TEL 0495-22-3471 飯田 豊

\*竹本俊平氏の奥様が管理されているホームページがあります。

交扇会の活動状況をご覧ください。

<http://www.geocities.jp/kousenkai>

〈開催予定〉

交扇会：

平成22年6月6日 於 奈良〔詳細未定〕

東峰交扇会：

平成22年3月22日 於 大宮 氷川の杜文化館 能舞台

## 平成 21 年度 衣笠禄栄会 奈良例会

平成 21 年度例会は、秋色深まり、遷都 1,300 年祭を来年に控えて建設工事たけなわの奈良市で 10 月 14・15 日の両日(昨年度と同じ日)開催した。降雨ありの予報にいささか心配もしていたが晴れ男の集まりか(?)両日共、暑い位いの好天に恵まれて楽しい集いであった。

案内状を会員 26 名に郵送したが、遠くは北海道から、福島からもかけつけ、少しばかり年を重ねてはいるが学生時代の面影を残した 14 名が 14 日の午後 1 時半に近鉄大和西大寺駅に集結して再会を喜び合った。我々一行は、傘寿を迎える年なので極力歩行を少なくし、タクシー 3 台に分乗して観光することゝした。

先ず最初は東の東大寺と並ぶ西の西大寺に行き、奈良時代の女帝、称徳天皇の勅願により建立された東大寺と双壁古刹で 11 面観音立像や四天王像が安置、4 月と 10 月の大茶盛式には全国から大勢の観光客を集めることで有名である。2 番目の秋篠寺は光仁天皇から桓武天皇にかけて建立され、特に本堂に安置された伎芸天は我が国唯一の優美な女性立像で古くから美術家・文芸家・芸能界の人々から讃仰されている。次にタクシーで第 3 番目の朱雀門へと向かった。遷都 1,300 年祭の中心的な存在となっているが美しい色彩の門を遠くから眺め、天平の昔を偲びながら記念写真を撮り、早々と宿泊先のかんぽの宿へ入った。全員入浴を済ませ 6 時から赤井会長の挨拶で始まった懇親会は予定時間をオーバーして盃を汲みかわし楽しいひとときを過ごすことが出来た。翌 15 日はバイキングの朝食を腹一杯頂戴し、タクシーに分乗、第 4 番目の西ノ京唐招提寺へと走らせた。唐招提寺は



秋篠寺本堂(国宝)の前で一行 14 名

唐の国から来朝した高僧鑑真和上(過海大師)で有名な寺である。中心的な金堂は 11 月末まで修理中であったが修業僧達が学問をした講堂と国宝や重要文化財の立並ぶ新宝蔵を見て、最終の第 5 番目、薬師寺へと車を走らせた。薬師寺は天武・持統・文武天皇の 3 代にわたり建立の大伽藍は我が国唯一の荘美を誇り龍宮造りと呼ばれるもので高田好胤管主が 36 年間かけて全国から寄進を受け、復元したものである。朱色や青色の建物は目を奪うばかりで、昭和 56 年に復興された六重に見える三重の西塔は国宝の東塔とバランスよく並び建ち、大変印象的であった。白鳳時代の国宝や平山画伯が 30 年の歳月をかけて完成させた玄奘三蔵求法を描いた壁画は一見に与いする。

一行は 2 日間の奈良古刹廻りを無事終え、昼食をとりながら来年は京都地区が担当する“琵琶湖周航 1 日コース”を約束し、元気で再会できることを祈念しながら夫々帰途についた。

福井 忠勝(養蚕科 昭和 26 年卒)

# ソフトテニス部のこと

手塚敏夫

(養蚕科・昭和30年卒)

英国で、200年ほどの昔(19世紀のはじめ)に発祥した **TENNIS** は、明治時代の初期には日本にも伝わってきて、ローンテニスの呼び名で上流社会の人々から流行りはじめ、硬式庭球として学生スポーツにも加わってきたが、使用ボールの輸入不都合などの悪条件に伸び悩み、やがて国内のゴム工場の技術向上と相俟って、明治30年頃から日本独自の軟式庭球が若年層をも含めて学生スポーツとして浸透した。大正時代には女学生がラケットを持って歩くことが、モダンファッションと持て囃される流行もあって、女性的競技とも言われながら男子学生にも定着し、特に師範学校で鍛えた教諭が、就任先で熱心指導に当たることなどが、より競技者人口を増やして行った。硬式がシングルス重視するのに反して、軟式では後衛と前衛をはっきりと分業して鍛練しその技術を発揮するダブルスの歴史を重ねてきた。終戦後は国際化に目を向け東南アジアでの交流や対抗大会を実施しているが、台湾、中国、韓国、には勝利を譲る結果を続けているのが現状である。その後、競技の名称も軟式庭球から1991年にはソフトテニスに改称され、従来の硬式庭球がテニスとなり明確に分離された。

1993年、更に1999年と国際ルールの競技規程改訂があり、2010年現在は、2004年改訂の(財)日本ソフトテニス連盟発行「ハンドブック」の諸規則に準じて執行されている。

さて、わが大学のソフトテニス部についてであるが、前身の京都高等工芸学校・京都工業専門学校と京都高等蚕業学校・京都繊維専門学校は共に1900年当初から軟式庭球部として活躍

した歴史が残されており、昭和に入ってからには両専門学校で対抗定期戦も行っていた記録がある。1949年(昭和24年)に新制大学として合併してからは、繊維学部の後援会が主体となって、毎年2回開催のOB会(雨天は中止)を欠かさことなく実施しているのが自慢である。年末の懇親会(雨天も実施)では集まったOB会費(年額3000円)から現役部員への援助金贈呈も続けている。テニスコートはキャンパスの北東コーナーに6面があり、テニス部と共同で使用しているが、2008年3月に北側の3面が砂入人工芝(通称オムニコート)に改装され、雨上がりも直ぐにプレーが楽しめるようになり快適である、反して南側の水捌けの悪くなったクレークコート3面は整備も悪く、雑草も生えているのが現状である。OB会の名簿には現在370名の氏名が連なっているが、消息不明の方も少なくない。現OB会の会長を務めた方を順次敬称略で列挙すると、故森本武夫(大9本科卒)・故八幡 穰(昭3蚕種卒)・故佐竹真澄(19製糸卒)・藤原孝衛(24織農卒)・植月 徹(28窯業卒)・片山紀章(28織化卒)・手塚敏夫(30養蚕卒)・現在谷口 實(39紡績卒)の8名で、現事務局は高尾俊明(平9物工卒)0721-29-1944である。

昭和25年秋に結成された近畿六大学ソフトテニス連盟のリーグ戦は春秋の開催であるから、今春60年を迎えて第120回大会に参加する訳であるが、ここ10年女子選手が0で棄権を続けている事に、リーグ加盟の疑問も問われている状況が当面の心配事である。更にリーグでの成績が殆ど最下位に甘んじている事も実は止むを得ないで済まされることではない現状にある。

# 癌と免疫の話

藤井 雅彦

(株クレハ 専務執行役員)

私は、昭和43年繊維化学科・相宅研究室を卒業し、呉羽化学工業(株)(現 株式会社クレハ)に入りました。昭和52年、“さるのこしかけ”より抽出・精製した抗がん剤「クレスチン」を世に出しました。この薬は、全く新しい作用機序を有する抗がん剤(免疫療法剤)として注目され、年間売上700億円を超える大型医薬品となりクレハの医薬品事業の礎となりました。以来40年余り、癌と免疫の仕事に従事してまいりました。過日、東京の法曹会館にて開かれた衣笠同窓会にて諸先輩方のお話しさせていただき名誉を戴きました。長寿社会の到来とともに3人に1人が癌で亡くなる中、身近な話題として関心を持っていただいたようであり、今回の寄稿の機会となりました。ここでは、私の専門分野である“癌と免疫”の話を中心に最新の癌治療について紹介していきたいと思えます。

## 1. 癌治療法の実際と最近の話題

1981年以来、我が国における死因の第1位は癌であり、男性では胃癌が、女性では乳癌の罹患率が最も高い。ここ10年で肺癌、大腸癌、乳癌の患者の数が急増しつつあり、食事の欧米化などの環境因子の変化によるとの疫学的調査の報告もある。一方、前立腺癌も増えており、加齢と癌そして免疫との係わりあいを示すよい例かもしれない。

現在、行われている癌の治療法は以下の4つに分類される。単独の治療法が実施されるのはごく特定の癌あるいは初期癌のみであり、いろんな治療を組み合わせる集学的治療法が一般的である。

### 1) 外科療法

手術により癌を取り除くもので、癌が局所に存在する場合や初期癌には、完治が期待される。

### 2) 放射線療法

癌細胞は未成熟な細胞であり、熱や放射線に対し正常細胞より脆弱である。γ線のほか、最近では高エネルギーで組織到達性

の高い重粒子線を用いた治療も開始されている。

### 3) 化学療法

投薬により癌細胞を死滅させようとするいわゆる抗癌剤治療と称されるものである。近年の分子生物学の進歩により癌細胞の特性が明らかになり、作用機序の異なる抗癌剤が開発されつつあるが、決定的なものはない。

### 4) 免疫療法

体にもともと備わっている異物排除能力(いわゆる免疫能)を利用して、癌を排除しようというものであり、本格的な医薬品として開発されたのは我々が開発したクレスチンと溶連菌製剤のピシバニールが初めてである。以下にその詳細について述べたい。

## 2. 癌の免疫療法

人間の体には、危険な異物を排除する機能(免疫)が備わっており、これを病気の治療に初めて応用したのはジェンナーである。ワクチン投与により出来る“抗体”が細菌やウイルスによる感染から生体を防御するというものである。ジェンナーの試みは200年以上も前のことであり、天然痘は20世紀半ばにはこの世からなくなった。実にすばらしい医学の勝利である。

癌も免疫で治そうという試みは古くからあり、漢方にもさまざまな記載がある。我々がクレスチンを開発したきっかけは、滋賀県・甲賀出身の研究者が実家の近くのおばあさんが山から取ってきた茸を煎じて飲んだところ癌が良くなったということに始まる。滋賀県の山からいろんな茸を採取し、動物実験で抗腫瘍活性を調べた。その結果、CM101と名づけられたカワラタケが最も優れた活性を示した。この菌株を人工培養し、得られた菌糸体から抽出・精製した成分を、胃、大腸、肺癌などの患者に投与し、臨床の有効性を確認した。腫瘍縮小効果は、化学療法剤ほど強くはないが、重篤な副作用もなくほとんどの癌で抗腫瘍効果が認められた。昭



和 51 年に厚生省の承認を取り、翌年クレスチンと言う名前で世に出した。(上図)クレスチンの制癌作用には免疫が深くかかわっていることは動物実験でわかっていたが、マウスの移植腫瘍の系であり、自分の体の中から発生する癌に対しどのような作用機序で効くのか、本当に“免疫で癌は治る”のかは、大きな謎であった。

人の癌が免疫で治ることを実験医学的に初めて明らかにしたのは、スウェーデンのカロリスカ研究所のジョージ、エヴァ・クライン教授ある。(写真)彼らはアフリカの小児に起こるパーキット・リンパ腫という癌に着目し“癌を克服した子供のリンパ球には、癌細胞を攻撃する能力が備わっている”ことを報告した。その後、分子生物学が進歩し、“癌は遺伝子の病気である”ことが明らかになった。癌の特性、免疫との関係についてもいろんなことが解ってきた。癌が生体内で生き残っていくためには、生体の免疫監視機構から逃避することが必要である。癌を攻撃するリンパ球の活性を抑制する免疫抑制因子を産生するほか、リンパ球に異物として認識されないように細胞表面の抗原発現(クラス抗原など)を減少させる。更に、組織として成長するための栄養血管を新生する因子や転移に必要な因子を放出する。

一方、免疫で癌を排除するメカニズムについても分子レベルでの解明が進んでいる。リンパ球を活性化する物質として、サイトカインと称される微量物質が見つかったほか、癌細胞を攻撃する機能を有する各種の免疫担当細胞も発見されている。細胞工学的手法により作成されたサイトカインを投与しリンパ球機能を高める方法、患者から採取したリンパ球(キラー T 細胞、 $\gamma\delta$ T 細胞など)を体外で増やし投与する方法、



癌ペプチドを使ったワクチン療法などの新しい免疫療法の試みも行われている。

クレスチンについても、数多くの新しい基礎および臨床的知見が得られている。胃、大腸癌の手術後に、化学療法にクレスチンを上乘せすることにより再発のリスクを低減させることが出来るという大規模臨床試験の結果も得られた。課題であったクレスチンの作用機序についても、500 を超える学術論文に報告されており、以下に示すような作用により制癌活性を発揮することも明らかになっている。

〈クレスチンによる免疫賦活作用のメカニズム〉

- 1) リンパ球の活性化とサイトカインの産生増強
- 2) 免疫抑制物質の産生抑制と中和作用
- 3) 癌細胞への直接効果(アポトーシスの誘導、クラス抗原の発現増強)

### 3. まとめ

近年の分子生物学の進歩により癌の研究は大幅に進んだ。研究が進めば進むほど、そのしたたかさが明らかになっている。“不老不死”の細胞がまさに癌であることが、テロメア遺伝子の研究でも明らかである。

実際の治療では、手術や放射線、化学療法などの外的手段でその大部分を除去するか弱らせ、生体が自ら有する異物排除能力(免疫力)を強化させることにより癌細胞を生体から完全に排除することが治癒につながる。中東で起こっている戦争と国家の再建、不採算企業の建て直しプロセスにも似ているかもしれない。いずれにせよ、“早期発見、早期治療”が最善である。

## 衣笠会・機織会(マコーン会)合同ゴルフコンペ開催

坪井 弘 光

(機織科昭和 33 年卒)

京都工芸繊維大学同窓会(KIT 同窓会)が一  
本化になる機会に、平成 21 年度秋期開催を予  
定している第 63 回衣笠会ゴルフ会と第 28 回機  
織ゴルフ会の合同ゴルフコンペを実施しよう  
との機運が盛り上がり、両幹事(衣笠会谷垣様……  
S43 卒、マコーン会森橋様……S39 卒)のご努  
力により、曇り空のもと平成 21 年 11 月 25 日(水)  
瀬田ゴルフコースで合同コンペを開催しました。

本会は平成 21 年 10 月 26 日実施予定で全員  
瀬田ゴルフ場に集結したが、突然の大雨で中止  
するというハプニングがありましたが、それにも  
めげず当日(11/25)の参加者は、最高齢のマ  
コーン会多田様(S21 卒)を始め衣笠会 11 人、  
マコーン会 13 人の 6 組で、土井衣笠会会長(S  
35 卒)より“楽しくやろう!!”との挨拶の後、  
松並にセパレートされた雄大なコースへスター  
トしました。

今回、ハンディキャップは制限なしのダブル  
ペリア方式で、参加者皆さんに優勝のチャン  
スがあるスリリングな催しで、ハンディキャ  
ップ 49.2 が飛び出すことになりましたが、結果

順位	所属	お名前	卒年	グロス	ハンディ	ネット
1	衣笠会	中田	S43	88	14.4	73.6
2	マコーン会	柴垣	S35	100	25.2	74.8
3	マコーン会	佐藤	S37	100	25.2	74.8

となり、衣笠会若手(?)中田様(S43 卒)が見事  
な成績で優勝されました。マコーン会下村様(S  
36 卒)はグロス 88 でベストグロス賞に輝き、  
ニヤピン 4 ケ所中 3 ケ所を獲得するという驚異  
的な「技」を発揮されました。

表彰パーティーでは入賞者の喜びや、反省の  
スピーチ等があり、互いに初対面の方が多く  
いたが同窓の誼みで、和気藹々と談笑して、本



第 1 回衣笠会・マコーン会合同ゴルフコンペ

のこれからについても多くの意見が交換され  
たが、春期・秋期 2 回の開催を下記のとおり決  
めました。

名称；衣笠会・マコーン会合同ゴルフコンペ  
場所；瀬田ゴルフコース

春期；第 2 回 平成 22 年 3 月 29 日(月)

秋期；第 3 回 平成 22 年 10 月 28 日(木)

なお、KIT 同窓会のゴルフ愛好者の皆様も  
いろいろなグループでのゴルフコンペに参加  
され楽しんでおられるものと推察いたします。

当会は KIT 同窓会皆様様にオープンであり、  
上記のとおり合同コンペの日程を決めました。  
一人でも多くの皆様にご参加戴き将来は“KIT  
ゴルフ会”の名称のもと開催できればと考えて  
おります。

ご質問、連絡をお待ちしております。

### 【連絡先】

京工大機織会(草野産業内)

TEL.06-6944-1213、FAX.06-6944-1217

## 編集後記

いよいよ、京都工芸繊維大学同窓会の同窓生の1年生、すなわち、工芸科学部の初めての卒業生が今年の3月に誕生しました。

この京都工芸繊維大学同窓生は、この卒業生を迎えるために事前にスタートを切っていたわけです。

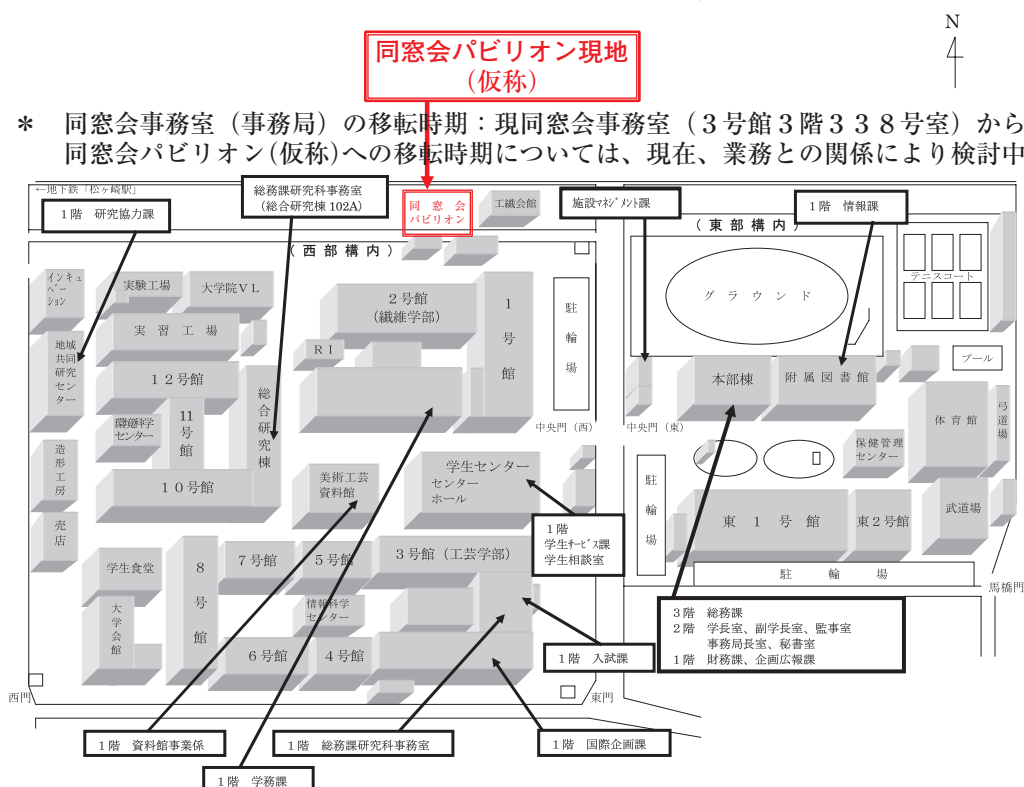
一方、京都工大会も衣笠同窓会も独自の会誌を発行するのではなく、これまでの卒業生の皆様全員にこの会誌をお送りすることとなりました。御承知の通り、同窓会誌は卒業生と同窓会のもっとも重要な通信手段です。そのためには、会誌の内容を充実させることが必要です。また、会員の方々にはこの通信手段が途切れることがないように住所変更などを事務局の方にお知らせ願いたいと存じます。

この会誌が皆様のお手元に届くころには、京都工芸繊維大学同窓会の建物が大学の北側の敷地内に完成しているはずですが。

是非、皆様方のご来館を心よりお待ちしております。

(文責 編集委員長 森 肇)

### 京都工芸繊維大学同窓会パビリオン現地図



### 卒業証明書等発行事務の移行について

下記証明書の発行事務は、平成16年4月1日から下記部署でおこなうことになりました。

証明書の種類	所掌部署
卒業証明書 成績証明書 修了証明書 学位授与証明書	工芸繊維大学事務局 学務課 学務調査係 京都市左京区松ヶ崎 郵便番号 606-8585 TEL (075) 724-7719

※郵送を希望する場合の提出書類

- 下記の必要事項を書いた発行願(書式は自由)
  - 氏名
  - 学部・学科
  - 学生番号
  - 生年月日
  - 入学年月
  - 卒業年月
  - 必要とする証明書の種類
  - 必要部数
  - 用途
  - 連絡の取れる電話番号
- 本人確認書類 (身分証明書など) のコピー
- 切手を貼り、住所・氏名を書いた返信用封  
以上三点を学務調査係宛に郵送して下さい。  
大学のホームページ <http://www.kit.ac.jp/>

## 2009年の美術工芸資料館

2009年の美術工芸資料館の活動は、1月19日から開催した「コロナタイプで蘇る法隆寺金堂壁画展」ではじまりました。文化財防火デーの関連企画として開催した展覧会でしたが、昭和10年に文部省の仕事として焼損前の法隆寺金堂壁画を撮影した佐藤浜次郎氏のご遺族が観覧に来られて、さまざまな情報や資料を提供していただくという幸運に恵まれました。展覧会というものは、展示期間が終わると跡を残さず消えてしまいますが、このようにいろいろなかたちで後に残っていくような企画をこれからも続けてゆきたいと思っています。

2009年もいくつかの新しい試みにチャレンジしました。その最大のものが、夏休みに企画をした「プロフェッショナル 建築・デザインの現在－京都工芸繊維大学造形系教員作品展－」です。造形系で教鞭をとる先生方は、いま社会の第一線で活躍する建築家・デザイナーでもあります。そのプロフェッショナルの技を在學生やオープンキャンパスで本学を訪れる高校生に示すことができれば、という気持ちで企画しましたが、実際には、同僚の教員にとってもとても刺激的でした。これからは、現役教員だけではなく、OBの方々の作品も展示、あるいは収蔵してゆくことができればと考えています。

もうひとつの試みは、秋に特色GPとの共催で開催した「アート&テクノロジー展」です。「科学と芸術の出会い」というテーマのもとに、テクノロジーを用いたアートを展示しました。1階ホールと2階の展示室4室を三名の現代美術のアーティストに提供して、インスタレーション的な展示になりました。関連企画として開催したシンポジウムとライブパフォーマンスも好評でした。これからも「科学と芸術」をテーマとした企画で、とくに若手のアーティストに展示の場を提供できれば、新しい芸術の発信地としての位置づけもできると考えています。

4月には、やはり特色GPとの連携で、ピンホール写真芸術学会の協力を得て「ピンホールカメラで出会う〈科学と芸術〉」展を開催しま

した。実習でピンホール写真を撮影する学生たちに、プロの作品を見てもらおうという企画でした。

もちろん、従来の延長線上であるポスターと建築の展覧会も開催しています。3月から5月にかけては「現代チェコ・ポスター展」、秋には「アーキニアリング展」、2010年の1月からは「建築家本野精吾－モダンデザインの先駆者－」展を開催しました。開学記念日にかけては、「館蔵名品展」として、ポスターから椅子、蒔絵の女乗り物(輿)までさまざまな名品を展示しました。

2009年のもうひとつの挑戦が、2009年度文化庁「美術館・博物館活動基盤整備支援事業」の助成を受けた「小学生向けポスター教材KIT-kitの製作とそれを利用した地域交流の試み」です。この助成をうけて、博物館実習の学生たちと一緒にポスター学習教材「KITkit」をつくりました。このkitは、シチュエーション作品や「東京オリンピック」など美術工芸資料館が収蔵する古今東西の有名なポスター作品を題材にして、小学生が、デザイン、構図、文字や色の使い方などポスター作品の特性を理解できるように工夫したものです。12月20日には、実習生と美術教室を開催し、松ヶ崎小学校の児童有志に来学してもらいました。小学生たちはkitでポスターの特性を学習したあと、実習生たちと一緒に「そうだ、松ヶ崎こう」というポスターをつくりました。小学生も実習生もとても熱心に取り組んでくれて、素晴らしいポスターができました。そのポスターは新年から1階のホールで展示しました。美術工芸資料館が誇るポスターコレクションを活かす試みであると同時に、地域交流の試みでもあります。新聞でも取り上げられたので、ご覧になったOBの方々もいらっしやっただかと思えます。

2010年もまた、さまざまな新しい試み、挑戦を続けてゆきたいと思っています。OBの皆様方もぜひ美術工芸資料館の展示に足をお運びください。

(美術工芸資料館長・造形工学部門教授 並木 誠士)





## 目次

会告	
ご挨拶	1
松原 藤好 江島 義道	
KIT 同窓会定期総会ならびに懇親会報告	3
定年退職教員挨拶	7
山岡 亮平 石原 孝 秋山 正博	
米谷 文男 藤井 善通 飯塚 泰雄	
井上 康博	
寄稿	10
次はロンドンオリンピックの年	
☆☆☆短大写真工学科同窓会☆☆☆	
大学だより	11
「京都工芸繊維大学創立60周年記念事業」記念式典等を実施しました	
Home Coming Day(東京地区同窓生懇親会)を開催	
本学で受け入れた洛北高等学校生が研究発表会で、最優秀である文部科学大臣表彰を受けました	
平成21年度「京都府名誉友好大使」に本学の留学生が任命されました	
本学留学生らが国立文楽劇場で「文楽鑑賞教室」に参加しました	
大学ロボコン2009に、本学チームの出場が決定しました!	
大学ロボコン2009で、本学チームが「特別賞」を受賞しました!	
最終年度を迎えた特色 GP	
「建築家・本野精吾展ーモダンデザインの先駆者ー」の開催	
開かれた大学	21
電子システム工学課程主催	
小中高生科学技術教室	
「FM ラジオを作ってみよう」	
小中学生のための科学技術教室(夏休み体験学習)『コンピュータのしくみ~マイコンで光を操ろう!』	
第13回 物質工学課程「大学一日体験入学」だより	
応用生物学課程体験入学 2009	
創造性豊かなものづくり体験学習 2009	
課外活動	27
ハンドボール部・卓球部・	
男子ラクロス部・ラグビー部・	
E S S・文藝部・ギター部・	
ボランティアサークルONEFALL	
叙位・教員の受賞	29
教員の異動	29
平成21年度博士学位取得者と学位論文題名	30
卒業生・修了生の就職進学先	32
訃報・物故会員	34
会費納入について	35
京都工大会だより	44
京都工大会解散について	
京都工大会解散にいたるまでの会計処理報告	
衣笠同窓会だより	48
寄稿	49
京都工芸繊維大学能楽部 OB 会・	
交扇会の事(心のふるさとへ帰ろう!!)	
平成 21 年度 衣笠緑栄会 奈良例会	
ソフトテニス部のこと	
癌と免疫の話	
衣笠会・機織会(マコーン会)	
合同ゴルフコンペ開催	
物故会員	55
編集後記	56
京都工芸繊維大学同窓会パピリオン現地図	56
卒業証明書等発行事務の移行について	56
美術工芸資料館 2009	
表紙デザインについて	
編集委員	

## ● 表紙デザインについて

同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと、心よりお慶び申し上げます。

平成 18 年度から、本学は教育研究組織の改組再編に着手いたしました。新学部は「工芸科学部」、大学院の名称は「工芸科学研究科」となり、学部課程から大学院修士課程までの一環教育が可能な体制へと変わりました。新たな体制で始動を始めています。

発足以来百有余年、「科学と芸術」という二つの大きなテーマを軸として、本学は発展を続けてまいりました。そして卒業された方々は、技術、芸術、文化、産業など様々な分野で活躍しておられます。このたび、新同窓会誌の表紙をデザインするにあたり、こうした本学の「発展」を一つのキーワードとして念頭に置きました。

右上に向かって延びる線は未来への視線を表しています。この線を軸に、明るい未来へ向かい、科学と芸術の融合を目指しながら大きく発展していく様子を祈念してデザインしています。本学の目指す「知と美と技」の探求、社会に貢献できる技術の創造をここに表現しています。

福田民郎(意匠工芸学科48年卒、造形工学部門)

## 編集委員 アイウエオ順 (\*本号編集委員長)

老田 達生	色昭51年卒	理事	物質工学部門准教授
櫛 勝彦	意昭57年卒	理事	造形工学部門准教授
中森 伸行	電昭47年卒	理事	情報工学部門教授
西田 秀利	生昭56年卒	理事	機械システム工学部門准教授
濱田 泰似	同大昭53年卒	理事	先端ファイプロ科学部門教授
本城 博一	建昭23年卒	副会長	
松原 藤好	養昭31年卒	会長代行	
三原 興二	化昭31年卒	副会長	
三好 明	化昭31年卒	副会長	
* 森 肇	蚕昭57年卒	理事	応用生物学部門教授
森本 一成	子昭51年卒	理事	先端ファイプロ科学部門教授
山根 秀樹	化昭54年卒	理事	繊維科学センター教授

事務局専務理事 上田 正勝  
寺田 一美

## 京都工芸繊維大学同窓会会誌 No. 4 号

平成22年 4 月発行

発行所 京都工芸繊維大学同窓会  
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎  
御所海道町  
京都工芸繊維大学3号館内  
(3階337号(合同)講義室入口左横338号室)  
TEL/FAX(075)724-7232  
e-mail: kit-obog@jim.kit.ac.jp  
ホームページ

<http://www.kit-obog.kit.ac.jp>  
当ホームページは、京都工芸繊維大学のwebサイトにもリンクしております。  
京都工芸繊維大学のサイトからもリンクしております。

振替口座 00960-3-224524

印刷所 (株)北斗プリント社  
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町  
38-2  
TEL:075-791-6125 Fax:075-791-7290